

し せい にん
東邦大学付属
東邦中・高等学校
同窓会「自生人」会報

令和3年度号 No.41 令和3.7.30発行
〒275-8511 千葉県習志野市泉町2-1-37
東邦大学付属東邦中学校・高等学校同窓会
TEL/FAX 047-472-1160
URL <http://www.shiseinin.org/>
E-mail shiseinin@yahoo.co.jp

目 次

- 同窓会総会開催案内…………… 1
- 会長あいさつ…………… 2
- 学校長あいさつ…………… 4
- 同窓会のこの1年…………… 6
- 同窓会理事会からの報告…………… 8
- 同窓生のページ…………… 11
- 特別寄稿…………… 20
- 学校の近況…………… 23
- アワード贈呈部活からの報告… 24
- 広報活動報告…………… 28
- 令和3年度入試報告…………… 30
- 新入会員を迎えて…………… 32



同窓会総会開催案内

日時 令和三年九月二十五日(土)

受付開始 十四時
総会開始 十四時半

会場 東邦大学付属東邦中学高等学校
セミナー館四階視聴覚大ホール

議事

(一) 報告事項

- ① 令和二年度事業報告
- ② 令和二年度収支決算報告

(二) 審議事項

- 第一号議案 令和二年度同窓会総会議案
(理事会案)の承認
- 第二号議案 令和二年度収支決算報告の承認
- 第三号議案 令和三年度事業計画案
- 第四号議案 令和三年度収支予算案
- 第五号議案 同窓会役員の改選

学校の近況報告

- ・ 東邦中学入学を取り巻く状況について
- ・ 大学進学状況について
- ・ その他

※母校の先生方からご説明をいただきます。

懇親会 今年度は実施しません。

「お願い」

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、可能な限り総会会場への出席をお控えいただき、委任状または議決権行使届による「議決権行使」をお願いいたします。

・ 「総会当日のコロナ対策に関する留意事項」を同窓会ホームページに掲載しますので、総会出席予定の会員の皆様は必ずご確認ください。

・ 感染拡大の状況や政府の発表内容等により、総会の開催に変更が求められるような場合は、同窓会ホームページ (<http://www.shiseinin.org/>) にてお知らせいたします。

コロナ感染防止対策を最重要視した会務運営

東邦中・高等学校同窓会「自生人」 会長 鮎川 一二郎（七期卒・現千葉商科大学名誉教授）



はじめに

会員の皆様には
昨今のコロナ感染
拡大の終息不透明
の中にも拘わらず

同窓会自生人の会務運営に、多大なるご理解
とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

本年の母校高校卒業式は、コロナ感染防
止対策を徹底して無事挙行され、第六十七
期生の二七一名が卒業し、同窓会員総数は
二三、五七二名となりました。

昨年二月に新型コロナウイルスが日本を襲い、
次いでパンデミックとなつて以来、新型コロナ
ナ感染拡大防止のための緊急事態宣言が出
されている昨今に至るまで、同窓会員の皆様
には、医療機関、教育機関、企業人や民間
人など様々な立場から感染防止に苦慮され
つつ闘っておられることと拝察いたします。

特に七月になって行政機関や医療機関の
感染防止策としてコロナワクチンの接種が
加速されているものの、コロナ禍の中で開催

される東京五輪は、無観客での開催も検討
され、千葉県でも感染拡大が懸念されて「ま
ん延防止等重点措置」の対象地域が追加さ
れるなど第五波への感染再拡大が懸念され
ています。

終息不透明なコロナ感染状況を鑑みて総会
開催について本理事会の方針決定

これまで会員皆様や人々の大切な命を守
るために、熱意と行動力に満ちた本同窓会
理事一同は、全員一丸となって学校法人東
邦大学および母校と連携して安心・安全な
会務運営を徹底して参りました。

しかしながら、コロナ感染拡大で昨年度
の定例総会が実施できなかったこと、重要
議案として、同窓会役員改選、二〇二三年
の母校中学創立六十周年・高校創立七十周
年記念事業、二〇二五年の東邦大学一〇〇
周年記念事業への協力、二〇二六年同窓会
創立七十周年記念事業等を抱えていること
から理事会方針として会則第九条第三項（理

事は、会長及び副会長と理事会を構成し、日
常業務を行うとともに総会の準備をなす）に
基づき、例年七月に実施していた同窓会定例
総会を今年度はコロナ感染回避、クラスター
感染源回避対策に万全を期した方法で九月
以降に時期を遅らせ、母校施設にて実施す
ることを計画しています。尚懇親会は実施
いたしません。

定例総会実施に関する詳細については、
本会報送付資料および自生人ホームページ
(<http://www.shiseinin.org/>) の「ついで」高覧
いただき、コロナ禍における諸事情ご賢察賜
り、何卒ご理解ご協力くださいますようお
願い申し上げます。

むすび

同窓会「自生人」は、母校と父母会の習
志会との三位一体の関係を常に維持しなが
ら学校法人東邦大学、母校へのご支援と同
窓会員相互の交流の促進を念頭に置き永続
的な活動を展開していく所存です。

コロナ感染から回避でき、二〇二三年の
母校中学創立六十周年・高校創立七十周年
記念事業、二〇二五年の東邦大学一〇〇周



マスク寄贈
向かって左より、鮎川会長、松本校長、渡邊和彦副会長

年記念事業への協力、二〇二六年同窓会創立七十周年記念事業等が賑々しく、かつ盛大に迎えられることを会員の皆様と共にご祈念申し上げます。

会員の皆様におかれましては、今後も益々ご健勝にてご活躍の上、同窓会事業へのより一層の参加と連携・協働を賜りますよう心よりお願い申し上げます。



同窓会役員



現同窓会役員紹介

- | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|------------------------------|--------------------------|----------------------|------------------------|----------------------------|---------------------|-----------------------|---------------------------|---------------------------|----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------------|---------------------|-------------------------|
| 鮎川 二郎 七期 会長
大学名誉教授 | 渡邊 和彦 二十期 副会長
歯科医師、歯科医院経営 | 渡邊 学 三十一期 副会長
医師、大学教授 | 棕原 茂樹 八期 理事
元会社役員 | 能勢 英雄 十四期 理事
元地方公務員 | 岡田久仁子 十五期 理事
会社役員、元母校教諭 | 鈴木 実 十八期 理事
会社役員 | 御喜 和 十八期 理事
前母校副校長 | 北川 太郎 三十一期 理事
薬剤師、薬局経営 | 五十畑昭彦 三十一期 理事
弁護士、会社役員 | 三矢 宏 三十二期 理事
会社経営 | 岡田 隆治 三十六期 理事
母校教諭 | 土田 雄大 四十六期 理事
母校教諭 | 藤内 圭一 十八期 監事
歯科医師、歯科医院経営 | 田浦 智子 十九期 監事
薬剤師 | 牧 栄 二十期 監事
鍼灸師、鍼灸院経営 |
|-----------------------|------------------------------|--------------------------|----------------------|------------------------|----------------------------|---------------------|-----------------------|---------------------------|---------------------------|----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------------|---------------------|-------------------------|

ご挨拶

東邦大学付属東邦中学高等学校 校長 松本琢司



同窓会の皆様方には、日頃より本校の教育活動に深いご理解とご支援を賜りまして、心から感謝申し上げます。

例年ご支援いただいております部活動の他にも、特に昨年から今年にかけては、新型コロナウイルス感染症対策として、マスクや消毒用アルコールのご提供をいただきました。不足が叫ばれていた中でのご支援に、この場を借りて御礼申し上げます。

昨年の同窓会誌発行以降の学校の近況をご紹介し、ご挨拶に代えさせていただきますと思います。

コロナ禍の下で中学校入試実施

中学入試は、コロナ禍の下での実施のため、感染症対策を施し、体調不良者に別日程の入試への振替を認めるなどの措置を取って行いました。前期入試の定員を十名減、推薦入試の定員を十名増の四十名としました。推薦・帰国生・前期・後期と延べ四つ（日程は三日）の入試を経て、中学校は三〇〇名の定員に対して、三〇二名が入学しました。

高校入試の方は、平成二十九年度より高校募集を停止し、一般入試を行わずに帰国生入試を実施していましたが、今年これも取りやめ、帰国生の受け入れは、中学校入試時以外では、中学二年（九月入学）から高校一年（九月入学）の年二回の編入学試験のみとなりました。

大学入試結果

今春の卒業生の進学実績については、進路指導部から詳細につきましては報告があります。

すが、完全中高一貫化の第二期生は、コロナ禍で授業が変則になる経験をしたものの、昨年の第一期生同様期待されていた成果を上げることができました。特に、医学部合格者が多数であったことが特筆すべきことです。

コロナ禍の一年

昨年度は緊急事態宣言を受けて四月・五月は休校となり、休校期間中は課題や授業動画の配信などを行いました。夏休みを例年の半分にするなど短縮して、授業進度の遅れの方は一年間かけてほぼ挽回できましたが、学校行事はほとんど実施できませんでした。中学校校外学習及び修学旅行・高校スポーツ・中高文化祭・中学体育祭・高校修学旅行・中学音楽祭などは一部いったん延期になりましたが、最終的にはすべて中止となりました。部活動も多くの大会・コンクールが中止となりました。

今年度は四月末から五月にかけて、新型コロナウイルス感染症の集団感染（教員一名、高校生十六名の陽性が判明）が本校で発生して大変ご心配をおかけいたしました。中

高とも約二週間(連休含む)休校としました。濃厚接触者は他のクラスや部活動関係にも及びましたが、陽性者は二クラスの生徒と当該クラスの授業担当教員のみでした。保健所の見解では感染経路は不明です。しかし、学校内で感染が拡大したことは確かです。で、このことを重く受け止め、検査でお世話になった学校法人東邦大学本部や東邦大学医療センター佐倉病院のご指導のもとに、感染症対策を徹底しているところです。

一日も早く新型コロナウイルス感染症が収束し、生徒が学校で伸び伸びと過ごせる日が来ることを願っています。

卒業生の皆様におかれましては、医療に従事されている方をはじめ、在宅勤務が困難で現場でお仕事をされている方も多くかと存じます。大変なご苦勞があるうかと思えます。敬意を表しますとともに、感謝申し上げます。

最後になりましたが、卒業生の皆様方のご健康と益々のご活躍、並びに同窓会のご発展を心よりお祈り致します。

(令和三年五月)



ロスナイ設置



黙食の様子

同窓会のこの一年

同窓会副会長 渡邊和彦（二十期生 歯科医院経営）

新型コロナウイルス禍の中での同窓会の活動（令和二年七月～令和三年六月）を報告させていただきます。

同窓会会報「ならっの」

第四十号の発行

例年通り、定例総会の開催に合わせ同窓会会報「ならっの」第四十号を発行致しました。

同窓会総会・懇親会

例年通り七月初旬の実施を計画しましたが、新型コロナウイルス感染拡大が収まらない状況に鑑み、理事会が開催延期を決断。六月十五日付で「総会開催に関するお知らせ」を定例会会報、同窓会総会資料とともに会員の皆様に送付いたしました。

理事会では令和二年度総会が例年以上に大切な議案（東邦中高周年行事へ支援、役員改選等）を抱えていることもあり、組織を挙げて総会開催の可能性を模索した訳ですが、新型コロナウイルス感染が十一月に第三波を迎えるに至り、年度内での総会開催を断念。十二月一日に東邦高校同窓会ホームページにその旨を掲載いたしました。

令和2年12月1日

同窓会「自生人」会員の皆様へ

東邦邦大学付属東邦中学・高等学校同窓会
「自生人」会長 鮎川 二郎

令和2年度同窓会の活動等について（お知らせ）

平素から同窓会「自生人」の活動に、多大なるご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。会員の皆様には新型コロナウイルス感染拡大がなかなか収まらない現状の下、経済活動や日常生活で深刻な状況に直面されておられることに心よりお見舞い申し上げます。

さて、延期措置をとっておりました令和2年度同窓会総会の件ですが、最近のコロナ禍のさらなる深刻化の現状に鑑み、年度中の総会実施を断念することいたしました。会員の皆様の健康と安全を最優先に考慮し、またクラスター感染源となることを回避するため、この度の決断に至りましたことをご理解ください。

次に令和2年度の今後の同窓会活動・会務についてですが、これまで通り、6月にお手元に送付させていただいた「令和2年度同窓会総会資料」に従って進めさせていただきます。

なお、「令和2年度総会議案の最終的な承認」は令和3年度の定例総会で行うことを念のため確認させていただきます。

【お問い合わせ】 同窓会事務局
TEL・FAX 047-472-1160
Eメール shiseinin@yahoo.co.jp

母校卒業式に向けての 取り組み

母校の方針で高校六十七期生の卒業式（三月三日）が校内関係者（生徒、教員、保護者）のみで行われることになり、卒業式前日に行われてきた「同窓会入会式」の実施も見送られました。六十七期生の皆さんに「卒業のお祝い」、「同窓会入会歓迎」の言葉を直接お伝えできる日が早く訪れること祈りたいものです。

なお、卒業記念品（ペン型印鑑、特製ペーパーバッグ）と会報特別号十七号は、卒業学年の先生方、同窓生教員の方々の協力を得て配付することができました。この紙面を借りて先生方への謝意を表します。

会報「ならしの」第四十一号発行

（令和三年七月三十日）

母校への支援

一・同窓会アワード

（母校生徒への報奨制度）

- ・報奨金
規程に従い、次の部活に報奨金を贈呈しました。
（学校の近況のページに関連記事があります。）
- 中学サッカー部（私学首都圏チャンピオンズカップ出場）
- 高校フイギュアスケート 個人（全国高等学校選手権大会出場）
- 中学スキー部（ジュニアオリンピック・中学校選抜スキー大会出場）
- 高校スキー部（インターハイ・国体・全国選抜・ジュニアオリンピック・関東大会出場）

横断幕

- 中学水泳部（中学日本記録樹立）

高校へ卒業を祝して

同窓会「自生人」副会長

渡邊 学（三十一期生）

東邦高校六十七期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症の影響で皆さんの高校生活最後の一年間は本当に大変だったと思います。通学できない日々が続き、学校で楽しく語り合うことやコミュニケーションを取る事が出来なくなり、学生生活の楽しみの多くが奪われたと辛く感じている方も多いことでしょう。また、体育祭・球技大会の中止、部活動の中止、最後の総体（総合体育大会）もすべて中止と、多くの学校行事が中止になったこともショックであったと思います。

この原稿は、二〇二一年一月三十一日に書いています。千葉県を含む十一都府県に「緊急事態宣言」が発出されている状況下で、卒業式もどのような形で開催されるか心配しながらペンを執っています。

私は、一九七九年に東邦大学付属東邦中学校に入学し、東邦高校、東邦大学医学部で学び、当時の主任教授（現学校法人東邦大学理事長）である炭山嘉伸先生に憧れ、東邦大学医療センター大橋病院外科に入学し現在に至っています。同窓会会報「ならしの」第三十一号（平成二十三年）にも書かせていただきましたが、現在「東邦一筋 四十二年」です。なかでも、東邦中学・高校の六年間は、本当に楽しく充実していました。素行の決して良くなかった私を、先生方は時には厳しく、でも温かく見守ってご指導くださいました。

残念ながら、高校を卒業すると、同窓会の存在は知っていても、その活動や総会の開催などを知らない方がほとんどだと思います。皆さんが過ごした東邦高校は本当に素晴らしいです。私はいつも感じています。そのことを同窓

会正会員の皆さんに再認識してもらうためにも、もつと母校の同窓会を知ってほしい、多くの先輩や後輩と交流を深めてほしい、いつまでも同級生との絆を大切にしたいという気持ちで同窓会活動を行っています。皆さんが卒業されると、数年後、数十年後に、各学年のクラス会、部活のOB会などが行われると思います。その時に、少しでも同窓会を思い出して、「総会」に参加してみようかと思っていただければ、あつという間に輪が広がっていきます。総会は、同窓会組織を運営するための「審決の場」ですが、総会の後は「新会員の歓迎会」を兼ねた懇親会を行っています。そこでは年代を越えての温かい親睦が実現します。残念ながら、昨年は新型コロナウイルス感染症拡大により開催されませんでした。今年も総会開催は難しいかもしれませんが、開催時には是非多くの新会員の皆さんにご参加いただきたいと思えます。

総会（懇親会）では、久しぶりに同級生に会ったり、懐かしい先輩や後輩と昔話を花を咲かせたり、担任の先生や部活の先生と思いを話したり、新たな発見もあるかもしれません。皆さんの同窓会です。是非、総会にご参加いただき、「東邦生の絆」を深めましょう。

私たちは、新型コロナウイルス感染症により、望んだわけではなかった「新しい日常」と言われる生活の中に放り込まれてしまいました。今経験しているさまざまなことが、皆さんのこれからの歩みにどんな意味を持つのかはまだ分かりません。しかし、この時がお互いを配慮し合う優しさを学ぶ貴重な機会になることを祈っています。高校卒業後の進路はそれぞれです。友人とも離れ離れになるかと思いますが、「東邦生の絆」を胸に、新しい生活、新しい時代の到来と言われる時であっても、変わることはない確かなものを礎にこれからの人生を歩んでいくべきです。

（同窓会報「特別号十七号」より抜粋）

二、「東邦大学のルーツをたどる」冊子制作

および配付

例年通り、學校法人東邦大学理事長、炭山嘉伸先生著「東邦大学のルーツをたどる」を新入生に配付しました。

三、母校行事への参加・協力（一部再掲）

新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組みとして、母校が次のような対応措置をとったため、当初の事業計画を実行することができませんでした。

- ①入学式・卒業式 ↓ 校内関係者(教職員、生徒、保護者)のみで実施
- ②文化祭 ↓ 中止

四、新型コロナウイルス感染拡大防止協力支援

・マスクの寄贈
 ・消毒用アルコールの寄贈
 令和二年五月、「マスクの不足」が社会問題化していたため、同窓会では母校にマスク一万枚を寄贈する計画を立て、予算計上もしました。しかし、六月ころからマスクの供給が安定してきたため、母校の先生方と相談し「消毒用アルコール寄贈」に計画を一部修正。十月に「消毒用アルコール一斗缶」を現物寄付いたしました。今後も母校との情報交換を密にし、効果的な支援を実現したいと考えています。

同窓会理事会からの報告

一、新型コロナウイルス禍の中での理事会会務の進め方

新型コロナウイルス禍への対応として、「年間を通して」理事が一堂に集まっていたの会議の実施を自粛し、メール・電話などで会長・副会長・各理事間で連絡を取り合いながら会務を遂行しました。（同窓会役員役割分担表（令和三年七月現在）参照）
 令和三年度に入ってからには、「オンライン会議（Zoomミーティング）」を毎月実施しています。



同窓会役員役割分担表（令和3年7月現在）

総務（危機管理・企画）		会長 鮎川 二郎	副会長 渡邊 和彦	渡邊 学
庶務 岡田久仁子 椋原 茂樹 北川 太郎 土田 雄大	広報・会報 御喜 和 能勢 英雄 岡田 隆治	名簿管理 五十畑昭彦 岡田 隆治		会員交流・WEB管理 三矢 宏 岡田久仁子
監事 藤内 圭一 牧 栄 田浦 智子	事務局 御喜 和 鈴木 実 岡田 隆治			事務パート 尾風 礼子 TEL・FAX：047-472-1160 E-mail：shiseinin@yahoo.co.jp

☆ 補足説明

◎会長、副会長は会務のすべてを総括する。

- ・同窓会総会の企画・運営：北川理事、三矢理事が担当する。総会における役割分担の詳細は別に定める。
- ・同窓会総会、理事会の資料作成：会長、副会長の意に従って事務局が作成する。
- ・同窓会総会、理事会の議事録作成：事務局が作成し、理事会の場で確定する。

二. 令和三年度同窓会総会に向けて

◆令和二年度同窓会総会議案（理事会案）の承認について

令和三年度同窓会総会議案の審議に先駆け、令和二年度同窓会総会議案（理事会案）の承認をお願いいたします。令和二年度同窓会総会議案（理事会案）を同窓会ホームページにアップしておきますのでご確認いただけると幸いです。

◆令和三年度同窓会総会議案（理事会案）

※会報ならしの四十号に同封した「令和三年度同窓会総会資料」をご参照ください。

①令和二年度収支決算報告について

コロナ禍の影響を考慮して予算案を作成したものの全体として二百万円以上の黒字収支となりました。「会員親睦補助費支出が全くなかったこと」、「理事会活動をリモートで行ったこと」、「部活動の活動制限により、学校教育活動支援金が大幅に少なかったこと」、「母校へのマスク寄付を修正したこと」等に起因します。

②令和三年度収支予算案について

東邦中高創立六十年・七十年周年記念事業、東邦大学創立一〇〇周年記念事業への寄付の環境として寄付金予算を増額計上しました。

◆同窓会役員改選

昨年度、先送りにした「役員改選」を今回の総会で実施する予定です。

三. 同窓会の各学年幹事の委嘱について

同窓会の会則に「学年幹事は理事会と協力して会務を補佐し、各期の連絡調整を行う」という条文があります。同窓会理事会では「学年幹事の委嘱」に積極的に取り組みたいと考えています。自薦、他薦を問いませんので、事務局まで情報を寄せてください。

同窓会事務局からの報告

一. 母校セミナー館内同窓会室での事務局業務について
会報の裏表紙（三十二ページ）をご覧ください。

二. 同窓会ホームページと新サービスシステムについて
当会報十ページをご覧ください。

学年幹事一覧（令和3年6月現在）

十七期	秋本 幸男
十七期	岩田 章浩
二十六期	金井 正仁
二十八期	河合 紫織
三十期	矢口 高基
三十二期	中島(旧姓 高田)正子
五十六期	小山 将平
五十六期	牧田 瑛介
五十九期	藤谷 和史
五十九期	村田 俊介
五十九期	押田 薫

★ 同窓会活動への寄付協力をお願い
・ 一口 壱千円 二口以上
・ 振込先 千葉銀行船橋支店店番号015
・ 普通口座 333747
・ 口座名 東邦大学付属東邦中学校・高等学校 学校同窓会
※寄付協力は会員の自由意志によるものです。
ご質問などございましたら事務局に連絡してください。なお、令和元年度は計十四万三千円の寄付をいただきました。

ホームページのご案内

**** 個人情報を会員自身で安全に管理できるホームページ****

会員の皆さまからご提供頂いている個人情報を、セキュリティ万全のサーバーで一元管理。
会員自身で内容の確認と変更ができます。

URL : <http://www.shiseinin.org/>

同窓会
ホームページ

東邦大学付属東邦中学校・高等学校同窓会

自生人とは
同窓会会則
フェイスブック
大学ページ
中高ページ
額田記念東邦大学
資料室ホームページ
理事会トピック

自生人 自然 生命 人間

自生人：東邦大学付属東邦中学・高等学校同窓会

2020.11.28更新
IEまたはChromeでアクセスしてみてください。Edgeではパスワード画面に到達できません。

自然 生命 人間

ユーザー管理用サイト

自生人(しせいじん)は同窓会の愛称です。
自然 生命 人間
パスワードは同窓会報に掲載されています。
自生人専用サイト入口

個人会員専用サイト
ID・パスワードは専用です
・各種登録情報更新(住所変更)
・各種お申込み
会員専用サイトです

自生人関係者以外の方の立ち入りをお断りしています。
クリックして入場してください。

クリックして入場してください。

パスワードは同窓会報に掲載してあります。
(毎年度変更予定)

パスワードは同窓会報と同封している用紙に
掲載してあります。同窓会報に利用方法を
掲載していますので、併せてご利用下さい。

よりよい情報を自生人にお伝えするためにセキュリティを強化しました。
専用サイトでは、同窓会報の他、記念誌の掲載情報や大学の広報など
自生人ならではのネットワークを駆使したレアな情報を掲載しております。
もちろん今後は、各期の同期会やクラブの記念行事、恩師や同級生の情報など
幅広くご紹介していく予定です。ご期待ください。

連絡先の登録がご自分で変更が可能になります。
ご利用ください。

自生人専用サイト

ID:shiseinin
PW:toho2013

会員専用サイト

ログインしてください

個人会員専用サイトのログイン・個人情報の変更

- ☑ 会員用サイトにログインしましたら、「マイページ」にてご自身の個人情報をご確認をよろしくお願ひします。今後、登録情報に変更がございましたら、こちらのマイページで変更して下さい。



サーバーへの侵入検知、ファイアウォールを設置し、コンピューターウイルス、悪意ある侵入者からの攻撃へ対策しています。
またマイページ内の通信はSSLを使用し、情報を暗号化して通信することで、データの盗聴や改ざん、なりすまし等を防いでいます。



同窓生のページ

◆六十六期生・六十七期生

六十六期生・六十七期生は、コロナ禍のため例年通りの卒業行事を実施できないまま母校、東邦高校を巣立ちました。同窓会入会を祝す催しも一切実施できていません。

各期代表の方から新生活に向けての力強い抱負が届けられました。「思い出のスナップ」とともに掲載させていただきます。

なお、卒業時の学年主任、前川先生、海老原先生には原稿依頼等、格別の労をとっていただきました。この紙面を借りて御礼申し上げます。

六十六期生（前川学年）

東邦中高完全一貫化のスタート学年。学年主任、前川智子先生（東邦高校三十二期生）のリーダーシップの下、生徒・教員一丸となって東邦の新しい歴史を刻みました。一堂に会しての卒業式が実施できなかったことは本当に残念でした。

自生人「東邦の信念を今も」

六十六期生 村上 絢音

今回は、歴史ある同窓会会報にお声がけ下さり、とても嬉しく思います。ありがとうございます。現在、私は東邦大学医学部に進学し、二年生として充実した日々を過ごしています。

昨年はコロナの影響により、ほとんどがオンラインでの学修となり、実際に通学できたのはわずか三ヶ月。友人が出来たのは夏休みが終わってからでした。本来ならば、午前中は講義、午後は実習を行い、休日には部活や友人達と遊んだりも出来たはずの日常が一変してしまい、大変残念でした。ですが、一年経った今は、学生生活を楽しみつつ、昨年よりも更に深い内容を学んでいます。今後は、臨床医学も学び始めていく予定で、より実践的な内容になっていくので、とても楽しみにしています。

さらに、毎日の学修が忙しい傍ら、休日は個別指導塾などでアルバイトをしています。指導していたうちの一人に、この春東邦中に入学した生徒さんがいます。その生徒さんとは共通点が多く、東邦での学校生活について話しているうちにふと、七年前の私を思い出しました。

幼い頃、漠然と医師に憧れた私は、中学受験をすることを決め、東邦中に入学しました。中学では英語部や生徒会で活動し、高校では茶道部に所属し、様々なことを学ぶことができ、大変良い経験になりました。特に高校では、学校行事に部活に勉強に、と両立は大変でしたが、全て楽しむことが出来たと思っています。特別秀でるものが無かった私ですが、中高の六年間では、かけがえのない友人にも出会い、私にとって大切な思い出です。卒業後、まだ会うことが出来ていませんが、今でも連絡を取ったりしています。そして東邦は、私が幼い頃から志していた、医学の道へ進む夢を現実のものにしてくれました。これは将来の職業へとつながる大事な決断でした。本当に感謝しています。

時々、大学の友人と卒業後の進路について話すことがあります。友人達は将来の目標が明確

に決まっています。しかし、私はまだ決まっていません。先の目標を見つけられないまま一年が過ぎてしまいました。東邦を卒業してもなお、自分探しの旅はまだ続きそうです。私は大学に通う際、隣にある大病院の前を通ります。毎日現場で働く医療従事者のみなさんを目にしますが、「私も早く医師として働きたい」と、より強く思う様になりました。その気持ちを大事にしてこれからの学生生活も過ごしていきたいと思います。



競技大会

ありがとう、東邦。

六十六期生 尾 島 萌

前川先生より、歴史ある同窓会会報への原稿依頼をいただき、お引き受けしてよいものだろうかと苦慮しました。大成していない私ではございますが、会報の一角にお邪魔させていただきます。

私は今春より、国際医療福祉大学医学部へ進学しています。留学生が多い上に、一日のほとんどを英語の授業が占めているので、「ようこそ外大へ」と軽口を叩く先生がいらっしゃるほどです。しかしながら、白衣や聴診器の注文をしたり、実習に備え予防接種を何本も受けたりしていると、私は医学部生なのだなとじわじわ実感が湧いてきています。今日この頃です。

さて今回は、東邦との出会いと思い出をお話したいと思います。私は父の仕事の都合で、幼少期を米国で、小学五年生からは英国で暮らしていました。英国での生活が数年過ぎたある日、私は両親へ、「高校入学の折で日本に帰国したい。」と懇願しました。母国から離れれば離れるほど郷愁に駆られ、高校生活への憧れが日に日に強くなっていたためです。

両親は私の思いを受け止めてくれ、急遽一時帰国し、期待半分、不安半分で多くの学校を見学しました。その中で、初めて東邦を訪ねた日のことは、今でも鮮烈に記憶に残っています。どっしりと構えた銀杏の大木。いくつも並ぶ実験室。すれ違うたびに交わした在校生との挨拶。美味しそうなカフェテリアの献立。ああ、私はここに入学したい。するしかないと確信し、英国に戻りました。英国の

学校の先生方も私の夢をサポートしてくれ、私は晴れて東邦生の一員になることができました。

その後の三年間は、言葉では語り尽くせません。東邦特有の個性的な先生方の授業を、超個性的なクラスメイトと受ける日々。昼休みにはカフェテリアへ猛ダッシュ。友達としゃべったり、人工芝の校庭でバレーボールをしたり。アドブラの問題が終わらないと友人に泣きついたり、この先生の声は眠気を誘うとか、あの先生の描く図や絵がうますぎるのは何故だろうと話をすることも日常茶飯事でした。この日常は先輩方にもお馴染みでしょうか。

三年生の進路面談では、私の無謀な志望を増子先生は全て受け止め、応援してくださいました。残念ながら、現役での合格を果たすことは出来ませんでした。自分の特性を見つめ直し、夢への第一歩を踏み出すことができたのは、お世話になった先生方、家族、友人たち、そして、東邦での暖かい思い出がずっと私を支え続けてくれたからです。これからも苦しいことや辛いことに直面した時、高校での日々を思い返して、ふと頬を緩め、歩みを進めていけたらと思っています。



文化祭（合唱）



北海道修学旅行

東邦での学習の軌跡

六十六期生 田 中 隼 人

僕は平成二十六年に東邦大学付属東邦中学校に入学してから、六年間東邦に在籍させて頂き、一年の浪人を経て今年、京都大学法学部に入学致しました。

中学校時代で強く記憶に残っているのは、一年生の時の中間試験です。クラスでぶつちぎりの最下位をとった僕は、担任の教師の方呼び出され、「この点数はまずい、勉強の時間を取れていなかったのか？」と新入生になって早々に勉強面での懸念人物となってしまいました。その後、試験期間にしっかり勉強するようにになって何とかクラスの中の成績を

取れるようにはなったものの、中学から部活に入って始めたバスケットボールにのめり込み、それ以上成績が上がることはありませんでした。

高校生になって厳しさを増した部活を続けつつも数学が苦手なのにも拘わらず、国公立文系を志望した僕は、その必要とされる膨大な学習量に必死に対応しクラスで十番以内を維持することが出来るようになっていました。しかし、やはり数学は伸びずに足を引っ張り、高校三年生になってからは思うように全体の成績も伸びず、最後のセンター試験の結果から僕は現役時に第一志望の京都大学を受けることを諦め、他の国立大学を受験して、結局その大学に落ちました。どこか落ちてでも浪人すればいいという気のゆるみがあったから、現役時にこのような不甲斐ない結果となってしまったのだと今では考えています。その後、後がないという意識をやっと持って一年間勉強に集中し、京都大学に合格することが出来ました。

今、これを読んで下さっている後輩の方には、成績が悪くとも諦めずに第一志望の大学をぜひ受けて頂きたいです。僕が現役の時、京大は数学が難化した為に得点差が開かず、僕のような数学が苦手な人に有利な年でした。あの時チャレンジしていたら受かっていたかもしれないと浪人中はずっと後悔していました。受けなければ可能性は0です。受ければ万が一は起こりえます。ぜひ諦めずに最後まで頑張ってください。

現在、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、京大では全面オンライン授業となり、サークルの対面での新歓もストップしてしまいました。時間が余っているので、今は課題の隙間に受験期に精読していた本を読んだりしています。依然、色々と制限がある状態ですが、時間

を有効に活用して、受験期には出来なかった自分が本当にしたい勉強を進めていければと思っております。医学を看板に掲げる東邦の仲間として、ともにこのコロナという逆境を乗り越えていきましょう。

六十七期生（海老原学年）

前川学年の取り組みを引き継ぎ、発展させた学年です。高校二年の終盤から卒業まで、コロナ禍の中の学校生活となりました。関係者の尽力により特別な形（会場内は卒業生と教員のみで、保護者はライブ配信を大ホールとカフェテリアで見学）ではありましたが、卒業式が実施できました。



中高六年間の思い出

六十七期生 五十嵐遥斗

この度は、同窓会報にお招きいただき、ありがとうございます。六十七期卒の五十嵐遥斗と申します。中高六年間お世話になりました学年主任の海老原先生より執筆の依頼があり、母校のためと思い、喜んで引き受けさせていただきました。私は中高六年間と東邦にお世話になりました。二〇二一年に東邦高校を卒業いたしました。現在は東京医科歯科大学医学部医学科に進学し、国府台にあるキャンパスで他学部・他学科の子と一緒に（と申ししても、医科歯科には医学部・歯学部、計六学科しかありませんが）教養科目を学んでおります。何を書くのか相当悩んだのですが、ここでは中高六年間の様々な思い出、特に六年間の東邦生活の中でやってよかったと思っていることについて振り返らせていただきますと思います。

一つ目は、高校で入った文化祭実行委員会（以下、文実）です。文実では、先生方の補助が付いているとはいえ、自分たちで文化祭の方向付け・運営を担当しなくてはならず正直なところ、苦労しました。ですが、イベントの中心にいる者としての運営の仕方や指示の出し方など、今後の生活にも役立つだろう多くのことを学べました。さらには、文実をやったことで先輩・後輩などの交友関係が大きく広がったこともやってよかったと思っている理由の一つです。後輩たちの頑張りをみてきた身としては、昨年は新型コロナウイルス感染症の影響で銀杏祭を開催できなかったのは非常に残念でしたが、今年度は何かしらの形で文化祭が開催できることを願っています。

二つ目は、中高で行った海外研修です。私はオーストラリア研修（語学・サイエンス）とシンガポール研修のすべてに参加したのですが、そこでの経験は、もちろん英語の勉強になっただけでなく、帰国後の勉強の動機にもなりました。海外の学生と交流し、刺激を受けたことは、進路決定をする上でも大学での留学機会を意識することにつながったので影響はとても大きかったです。また、とても個人的な話になってしまふのですが、医学部入試の面接でも語学力をアピールする材料になったので、いろいろなことに挑戦することは大切だと気付きました。

新型コロナウイルスの影響で様々なことが制限されていますが、医療系学生としての自覚を持ち、対策に気をつけながらも、学業や友人作り等、種々の活動に取り組んでいきたいです。私自身はまだ研究に進むか臨床に進むか決めておりませんが、どちらの道に進んでも業界のトップリーダーとなれるように努力していきたいです。末筆になりますが、皆様の健康とますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

かけがえない六年間

六十七期生 大 濱 忍

私にとって東邦中高での六年間は興味関心を広げてくれた宝物のような日々でした。

中学時代は水泳部に所属していました。同級生に誘われて入部したものの泳力はひどいもので……。部員の皆さんにはご迷惑をおかけしたと思います。それでも顧問の先生方は親身になってご教授くださいました。部活の仲間と切磋琢磨して努力した二年半はとても充実しており、水泳が大好きになりました。

高校時代には考古学研究会に所属し、東京や千葉だけでなく青森や群馬、長野にある多くの博物館や遺跡を訪れました。習志野市立谷津南小学校に隣接する習志野市遺物整理事務所で開催した遺物整理は忘れられません。この遺物というのは故人の遺品という意味ではなく、発掘によって採集されたものの事を指しています。ここでは発掘調査によって得られたものはとても丁寧に処理、記録されていることを学びました。発掘できた遺物は、古代の人々がどのような食生活だったか、どのように暮らしていたのかなど多くのことを私たちに教えてくれます。昔の人々の想いを想像するとワクワクする。初めは考古学にあまり興味のなかった私をそこまですべて変えてくれた考古学研究会にはとても感謝しています。中高合同の部活であり、穏やかで個性あふれる同級生や上級生、下級生、顧問の先生方に囲まれとても幸せでした。

中学三年生の頃から図書委員会にも所属し図書新聞や文化祭等、忙しく活動しました。生徒から返却ポストの要望が出たことをきっかけに活動したことは、良い思い出です。仲間と議論を重ね、先生方に掛け合った事は、設置は叶わなかったものの良い経験でした。

ここで図書新聞で取材した「暗やみ本屋ハックツ」の紹介をさせていただきます。この団体は大人が十代のうちに読んでおきたかった本や読んで欲しいと思う本を十代の子供たちに届ける活動を行っています。十代の子供たちはそれらの本が並べられた暗い部屋の中にペンライトを持って入り、気に入った本を探します。詳しくはホームページをご覧ください。現在はコロナ禍ですので実店舗での運営ができていませんが、その代わりにZoomを使って毎月開催しておられます。運営スタッフの方々は普段、会社

員や大学生など色々な分野で活動なさっています。私も参加してみて自分の見えてくる世界の狭さに気付かされました。

東邦中高での六年間は、新たなことに挑戦するとともに仲間と高め合うことのできた時間でした。支えてくださった皆さんには感謝してもしきれません。現在は東邦大学の医学部に在籍しています。コロナ禍のため思うような学生生活はまだ送れていませんが、新たな出会いに毎日刺激を受けています。早く感染が収束し、皆が心から笑顔になれる日々が戻ることを願っています。

濃密だった六年間

六十七期生 大久保栄斗

東邦での思い出はほとんど部活のことしかないので、そのことについて書かせていただきます。私は中学一年生の時からスキー部に所属していました。最初は「スキーで北海道に行こう」という売り文句から来る軽い興味本位で入部を決めたことを今でも覚えています。両親も「好きなことをやりなさい」と背中を押してくれましたし、今考えると両親の応援がなければできなかったと本当に感謝しています。

入部したもののスキーの知識はゼロだったので、「なぜこんなに苦しい練習を週六日もやっているんだ？」とよくわからないまま練習に参加していました。そして初のシーズンイン、スキーというのは笑いながらできるものではないことを知りました。私のやっていた競技はクロスカントリスキー（クロカン）でしたので、雪山を登り、時には凍傷になりかけて泣いたことでもあります。競技人口が少なかったので簡単に全国大会に出場することができましたが、その

時の順位は確か下から数えて三十番くらいだったと思います。私は「順位低すぎる！悔しい！」と思い、同時に雪のない千葉県が参加していることに少し場違い感を感じていました。その時初めて、強豪県に勝って胸を張って千葉県代表を名乗りたいと思いました。

中二では、群馬県の選手に勝つことができ、全中の成績も全体の半分くらいに上がりました。結果、引退の高二までに競合の長野県や新潟県の選手にも勝つことができ、高二のインターハイや国体では自己ベストを作ることができました。

またスキーの成績以外にも、部長になったことで培った統率力や集団行動の大切さなど社会に出て生きる力を学びました。そして何より自慢できるのは、優秀な先輩たちです。冬の忙しいスケジュールの中でも文武を両立し、名門大学に合格していく先輩たちは憧れの対象でした。こういったスキー部のスキー以外の様々な要素が自分の人生を豊かにしていつてくれるのだと学びました。

現在、私は北海道大学に通っております。授業だけでなく一人暮らしやバイトで日々学習の連続です。スキー以外の活動をしようと思っていました。大学の場所が雪のある所なので再びスキー部に入って活動しています。北大のスキー部員はほとんどが初心者なので、教えることも多いですが、私の今の目標は北大のスキー部がインカレで一部に上がることです。ポイント稼ぎの点や自分の興味から今シーズンだけはスキージャンプも行うノルディック・コンパウンドに挑戦してみようかと考えています。たった四年間の大学生活です。今しかできないことにたくさん挑戦していこうと考えています。

同窓会でみんなに会ったときは何に挑戦しているか話したいですね。

◆学年幹事

同窓会思い出すままに

十七期学年幹事 岩田章浩

同窓会に縁の薄い私めが会報の原稿を依頼された。

五十年前、昭和四十六年三月卒業の第十七期生、思い出すままに同窓会について思い出を語りたい。

拙い文章であること御寛容頂きます。卒業から二十四年目の平成七年夏頃「同窓会名簿」の案内が届き早速注文をした。

翌八年初夏に名簿が届き懐しい同期生の名を見付けたこと、所在不明の旧友の多いことに少し驚いたことを思い出す。

一年後の九年夏、二つの同窓会から開催通知が届き「どうなっているんだ！」と知人に連絡するも皆四十代中盤の働き盛り関心も薄い。校舎で開催の総会に出席することとする。

当日鮎川会長の懇切丁寧な趣旨説明、同期I幹事（故人）らのお話をお聞きして経緯など理解した積もりで帰宅する。

翌十年の総会で運営が安定していることがわかり「良かった！」との思いで同窓会とは離れてしまう。

十年後の平成二十年（？）帝国ホテルでの同窓会に出席して「益々発展している。」ことを感得する。

時は過ぎ平成二十五～二十六年（？）新しくなった校舎での同窓会に出席する。

そこで同期で同じ考古学研究会の仲間秋本幸夫さんと邂逅する。

旧交を温める中で第十七期同窓会を開催出来

ないかと話し合う。
秋本さんの尽力、実行委員会、同窓会事務局の御協力を頂いて開催に向け少しずつ動き始める。

全員が六十五歳を迎えた平成二十八年六月JR津田沼駅近くのレストランにて開催の運びになった。

当日は恩師の先生方を含め、一〇〇名以上参加の大盛会と成った。消息を尋ねる中で三十名以上の物故者のいることがわかった。

本当はもっと多いのではないだろうか。
合掌……

再会を約して別れたOさん、一年後訃報に接する。開催出来て良かったとの強い思いが今もする。

当日の様子は本誌第三十九号「還暦から古希への折り返し同窓会」を終えて」を御覧下さい。

もう少し同期生を探す為に一〜二年後との意見もあつた様に記憶するが昨今のコロナ禍を考えると三年前開催は良い時期ではあつた。

さて、来年令和四年は開校 七十周年節目の年である。

輝かしい一〇〇周年への一里塚と言える。既に学校、同窓会で記念企画は検討されているのではないだろうか。

「東邦高校七十年史」(案) など如何でしょうか。

騎兵連隊跡の校舎から現代まで年表、写真、統計表、先輩方の回想等まとめられ令和五年三月〜五月頃迄に発刊できれば？……

そんなこと考えながら筆者は趣味の文書の世界に戻って行く今日この頃である。

母校、同窓会の益々の発展を心から祈念し本稿を閉じさせて頂きます。



武田 BAND



タイムスリップスクリーン

雪国から

三十二期学年幹事 中島 正子

いつもお世話になっている先輩から、同窓会「自生人」会報の同窓生のページに記事を書いて欲しいと連絡がありました。しかも恩師の御喜先生からの依頼とのことで、文章を書くのは大の苦手の私でも、お断りできませんでした。少しでも恩返しになればと思い、現状報告をさせて頂いていただきます。

タイトルは、『北の国から』でどう？ってことでした。確かに全国ニュースになるくらいの雪国ですが、ここは新潟です。

東邦中学・高校を卒業後、歯科衛生士になりました。都内の矯正歯科クリニックで数年勤務したのち、新潟出身の歯科医と結婚して新潟県民になり早三十年です。

正直なところ卒業後の二十年は、仕事、出産、育児と、日々の生活に追われ母校のこともすっかり忘れておりました。二人の息子たちも成長し落ち着いたちょうどその頃、同窓会に誘っていただいたのをきっかけに、平成二十年から、参加させていただいています。

東邦在籍中の六年間、自



金井宣茂宇宙飛行士「打ち上げイベント」に参加 (2018.12 東邦高校体育館にて)

分がどんなに恵まれた環境にいたかなんて考えもしませんでした。今になって勿体ないことをしたなと後悔しています。あの頃にしか出来なかった、部活動、勉強、その他のことももっと全力で貪欲に楽しんでおけば良かったです。

同窓会、銀杏祭に行くと、改めてたくさん同窓生が色々な分野で素晴らしい活躍をされている事を聞き嬉しくなります。平成二十九年に、金井宣茂さんのソユーズ打ち上げイベントを体育館で開催してください時は、参加者全員が大興奮でした。本当に刺激的でしたし在校生には、大きな夢や希望になったでしょうね。

毎回たくさんの良い刺激を楽しみにしていますが、令和二年の同窓会は、残念ながら延期になってしまいました。今年の開催も難しいでしょうか。

新型コロナウイルス感染症で、世界が激変して既に一年。未だに収束する兆しが見えませんが、幸い私の住む市内には感染者が少ないのですが、だからこそそのプレッシャーを感じます。田舎ならですが、個人がほぼ特定されてしまいます。心無いことばをかける人もいますし、家に石を投げる人もいます。信じ難いけれど、悲しいけれど現実です。

一日に五十人近くの人と接する仕事です。で、どんなに対策をしても不安でしかありませんが、冷静に思いやりをもって、私に出来ること、やるべきことを精一杯頑張るだけです。東邦の卒業生として恥ずかしくないように。

一日も早くマスクを外して、笑顔で楽しく会話、会食が出来るように願っています。

また同窓会、銀杏祭に行けるようになることを楽しみにしています。

閃光

五十六期学年幹事 牧田 瑛介

『あつという間に終わってしまったよ』

十年なんて 二十年なんて

あつという間に終わってしまったよ

十代なんて 二十代なんて』

このフレーズは私が大好きなアーティストの楽曲歌詞の一部です。

東邦高校を卒業してから早十一年。

我々の代である五十六期生は今年ついに三十代に突入いたします。

思えばこの十一年間、様々な『決断』の根幹には東邦での生活で『自然』と育まれた血が流れていて、背中を後押ししてくれた気がしています。

たとえば、大学時代、未経験ながらも没頭した『チアリーディング部』での活動。

当時は全国的にも珍しい男性チアリーダーとしての道を決断したのは、高校一年生の銀杏祭でウォーターボーイズに挑戦したから？男子がシンクロ？男子がチア？

ワクワクします。

たとえば、昨年頭、新卒で入社し約六年間勤めた日系大手メーカーを退社し、レコード会社への一八〇度転職。

周りからは『もったいない』と心配された選択を決断したのは、東邦高校での数々の思い出とともに脳裏に焼き付いている素晴らしい音楽が今でも私の『生命』を突き動かしていると確

信したから？〇〇の新曲聴いた？MD貸そうか？

ワクワクします。

チアリーディング・転職ともに、東邦の先生方・同級生・先輩後輩は声を揃えて『私らしい』決断だと応援してくれました。

さて、冒頭の歌詞のとおり『あつという間に』二十代を終えようとしている私ですが、最近はどうと前述の転職先にもっぱら仕事に打ち込む毎日を送っています。

ビジネスとしては右も左もわからないエンタメの世界に飛び込んだ直後に、このコロナ渦という未曾有な状況に直面しつつも、不安をワクワクで乗り越えながら、自分の好きなコトを仕事に出来る幸せを感じながら、毎日を生きています。

約二年前、転職を考え始めたころ、いわゆる「夏フェス」と呼ばれる音楽イベントに東邦の親友と訪れました。中高時代から度々参戦している、私にとってのいわば夏の風物詩です。

「夏フェス」というものは、様々なアーティストが様々なステージで繰り広げるパフォーマンスを、自分の好きなようにスケジューリングして観ることが出来るイベントなのですが、時折、観たいアーティスト同士の公演の間に「すきま時間」が訪れます。

目当てのアーティストの公演が始まるまでのほんの二十分。

そんな「すきま時間」に、当初は観る予定すら無かった、とあるバンドに私は出会いました。そのバンドは、ステージの上でとてつもないほどの光を放っていました。

彼らの全身から溢れ出るオーラと、【人間】くさい等身大なストリートな歌詞に、一瞬で心

を掴まれたのを鮮明に覚えています。そしていつの間にか次の予定もそっちのけ。その出会いから約半年後、私は転職をしました。

私の入社後、そのバンドは移籍を発表。不思議なもので、現在は一緒に仕事をしていません。

あ、少し話を誇張してしまいました。例の「夏フェス」にて、せっかちな私は目当ての別アーティストの公演に時間通り向かうため、そのバンドの公演を途中で切り上げようとしたのですが、感性のまま生きる例の東邦の親友が引き込まれるように最前列へと誘われてしまったせいで（おかげで）、今の私があるというところをここで補足しておきます。

言わずもがな、冒頭の歌詞はこの運命的な出会いをしたバンドの楽曲のモノです。楽曲の最後はこう締めくくられます。

『あつという間に終わってしまっようよ
一生なんて 一瞬だって』

三十代を迎えるにあたり、このフレーズがやけに現実味を帯びて感じる今日この頃ですが、笑いたいように笑い、今やりたいことを大事に、過ごして行きたいと思っています。

P.S.

また、ちょっとカッコつけた文章を書いてしまいました。

先日、引越した際に、東邦時代の自分の文集を眺める機会がありました。血は変わらないものですね。

コロナ渦なんて『あつという間に』終われば

いいのにと願って、
チーム東邦で共に、乗り越えましょう！



予感のする方へ歩むきっかけとなった夏フェスにて

予感のする方へ

五十六期学年幹事 小山将平

正直に言おう。

高校生の頃の僕は、未来というものを、全く想像していなかった。

ただ、毎日を、その日を、過ごしていた。

面白くないことは、嫌だった。
面白くない自分は、嫌だった。

どんな人とも、仲良くなりたかった。
どんな人とも、仲良くしたかった。

そんなことを思いながら、文化祭の季節になれば、どんなことをやろうかと真剣に考えていたし、体育祭の季節になれば、応援団をやりたいと、な

ぜだろう、思ったんだ。未来の役に立ちそうなことを考えてなんて、全くしてなかった。

学校の外に、こんなにも世界があるなんてことも、知らなかったよ。
興味すらなかった。

どうやら、高校の次には大学というものがあるらしい。

どうやら、隣の組のあの子はアメリカという国へ行ってしまったらしい。

どうやら、明日の二限は体育になるらしい。

僕にとって大学も、アメリカも、明日の二限が体育になることと同じくらいのことだった。いや、下手したら体育の方がよっぽど重要だったかもしれない。

うん、重要だった。

未来より何より、体育の時間に全力でやるバレーボールが、ハンドボールが、バスケットボールが、最高に好きだった。きつとあの時、身体に、「楽しい」「悔しい」を夢中で刻み込んでいたんだらう。

文化祭でさ、朝早くに集まって、夜遅くまで話し合ってた、迎えた当日の朝の感じが、たまたまなく好きだった。

きつとあの時、心に、ゾクゾク、ワクワクを、夢中で刻み込んでいたんだらう。
きつと賛否両論あるだらうし、世間的に正し

いのはどちらかなんて重々承知。

「だけどそれでも、今の僕が、もしも高校生の僕に何か伝えられる瞬間がきたとしても、僕は「アメリカに行ってみろ」とか「プログラミンクやってみろ」とか、「起業もできるぞ」とか、多分言わない。」

「言ったところで、多分聞かないよ、あいつは。「なんだこの、ただ正しいだけの大人は」とか思われそう。」

誰かに言われた、未来に活きる何かよりも、どんな時も、楽しい予感の方へ向かっていって、自分で見つけた、嬉しい、悔しい、ゾクゾク、ワクワク。

それを身体に心に刻み込むのに忙しくて仕方ないあの青年に、今の僕が偉そうに言えることなんて特にない。

ただもしも、あの頃の自分と今の自分が出会ったならきつと、学生の頃の自分とっては夢みたいだな、想像もできないような今の話を、我慢できずにしちゃうんだろうな。

「もうすぐ三十になる僕は、というか未来の君は、起業家で、お店をやったり、小説を書いたり、WEBサービスなんかも作ったりして、素敵なお客さんや仲間たちに囲まれて、文化祭前日みたいな、忙しくも楽しい日々を送っているぞ」とか。

「テレビやスマホの中でしか見たことないような格好良い大人たちとも一緒に仕事をした

り、ご飯を食べたり、仲良くなったたりしているよ」とか。

「東邦時代の親友とは今でもちゃんと親友で、学生の頃はそいつに助けられてばかりだけど、やがてきつとそいつの背中を、社会がどうとか世間体がどうとかそんなことお構いなしに、そいつの行きたい方へ全力で押してあげられる存在になるよ」とか。

他にも沢山、学生の頃の自分に話したならきつと喜んでくれるだろう出来事たちに囲まれて、今の僕は生きているよ。

だから中学生の頃の、高校生の頃の僕よ、私よ、ありがとう。どんな時も、楽しい予感の方へ進んでいってくれて。

ありがとう、全力で悩んでくれて。ありがとう、本気で恋をしてくれて。ありがとう、夢中で過ごしてくれて。

そして友人たち、先輩たち、後輩たち、先生方、そして父さん母さん、ありがとうごさいます、ちゃんと見守っていてくれて。

おかげで今の僕はこうして幸せに生きています。だから、苦悩を、挫折を、成功を、不条理を、感性を、友情を、恋心を、身体に心に刻み込むのに忙しくて仕方なかったあの青年に、今の僕が偉そうに言えることなんて、特にない。

ないけれどただ、まっすぐ目を見て、今ワクワクしていることをキラキラした目で語り尽くして、そして最後に誠心誠意、「ありがとう」と伝えられたらいいなと強く思う。

だからこそ願わくば、今を生きる東邦生の、あつという間に終わってしまう十代も、二十代も、全力で喜怒哀楽に富んだ素晴らしい日々となりますように。

そしてその後の、同じようにあつという間に終わってしまう十年を、二十年を今まさに生きる諸先輩方の日々も、今の東邦生に負けじと喜怒哀楽に富んだ美しい日々となりますように。

そうしていつかどこかでお会いできたなら、笑い合えたなら、東邦でのいろんな話を語り合えたなら、きつと楽しいに違いない。そんなことを頭の片隅に置きながら、僕も引き続き、全力で駆け抜けて参ります。

この、あつという間に終わってしまう、素晴らしい日々を、一生を。

東邦で過ごした頃とあいも変わらず、楽しい予感の方へ。



小山将平
「自由丁」オーナー兼 (株) FREEMONT 代表取締役

特別寄稿

◆編集部より

「最貧困女子（幻冬舎新書）」、「脳が壊れた（新潮社新書）」等の著書で知られる鈴木大介氏（三十八期生）にご寄稿いただきました。

「母校よ、今も学びの アジールであれ」

三十八期生 鈴木大介



東邦中高卒業生として、僕には愛校心があるか？ 深々と半日ぐらい考えて、まさかのまさか、その三文字の感情が自らの中に確かにあることに気づき、戸惑っています。「母校」という言葉も、違和感なく受け容れられる。でもそこに至るまでに、卒業から三十年かかりました。

四十七歳になる今でも、高校三年生の教室に、今の魂をもったまま戻ってしまうという夢を定期的に見ます。それは、悪夢です。

大学受験に向け、同学年およそ三五〇名がシヤカリキになって机に向かっていたあの一年、僕は大学受験を真っ向拒否して日々いくつものアルバイトを掛け持ちして稼いだり、国際協力系のNGOでボランティア活動に精を出していました。

ラストスパートに向けてぐいぐい学力を上げていく同級生と、卒業に必要な三分の一の出席数と定期考査における最低獲得点数とにらめっこしている僕の間、みるみる開く学力差……。「同じき路に進む友の」、校歌からも逸脱した、ひとりの路。

選択が違うだけ。みんなと違う独りぼっちの路でも、どちらに進めばいいのか道標がどこにもなくても、自分が歩みを止めなければ前には進んでいる筈。そう自身に言い聞かせつつも、やはり耐え難いほどの孤立感と不安たるや。あの一年は、いままも思い出すと心拍数が少し上がります。

東邦大学付属東邦中等高等学校。在学中の六年間、ずっと僕は、ひ弱なアウトサイダーでした。同級生たちに迎合したい、浮きたくない、けれど馴染めず、学校が嫌いで、その場にいる自分に常に違和感を感じている、そんな小さな存在だったように思います。

思えば違和感の発端は、中学一年生で入学した直後に配布された、クラス名簿を目にしたとき。そこにはクラス全員の住所電話番号以外に、保護者の職業欄がありました。

医師、学校教員、薬剤師、会社役員、会社経営者、ずらずらと居並ぶ「立派な職業」の中に、とあるブルーカラー職を指し示す名称が書かれていました。

十二歳、「職に貴賤はなし」という言葉は知らないけれど、瞬間的に頭に血が上ったのを憶えています。

これを敢えて書いて全生徒へ配布することに

なんの必要性が？ 親の職業が子どもたちやほかの保護者にとって何かの評価基準になるとでもいうのか？ これを書かれた同級生は、どう思うのか？

教師ではなく母親に食って掛かると、さすが生みの母、華麗にサラッといなされました。

「大介はいつでもそうやって自分以外の誰かのことで怒ることができる、ほんとうに優しい子だねえ（けれどちょっと面倒くさい子どもだねえ）」

もちろん思春期の男子ですから、小難しいことばかり考えているはずもなく、所詮脳内の八割は性的好奇心。近所のあぜ道でエロ本のかけらを探すことに日曜日を費やしたり、父が会社から持ち帰ってきたワープロで人生初の力作文芸作品（エロ小説）を書いて学校に持ち込んだら体育の柴田雄二（現教頭）先生に没収されるなんてことをしながらも、なんかこの学校居心地わりーなく、なんかここから僕はズレてる感じがするな〜などと薄ぼんやり感じ続ける生徒でした。

時流は、「熱くなることは格好悪い」の風潮で、自らも熱くなれるほど根性も勇気もない中、ただただ心の中の意味の分からない熱量に内側から焦がされるように感じながら、この学校に通い続けました。過ごした日々を克明に憶えているタイプでもありませんが、在校中にいくつか忘れたい思い出があります。

例えば、その後の人生を決定づけた起点として憶えているのが、たぶん中学二年か三年の頃。御喜先生（前副校長）の授業にて、人の生活と水環境について教わったことです。

先生は海浜で起こるプランクトンの異常発生⇨赤潮の原因として、人が出す生活排水による富栄養化があること。けれど一方で、一定の基準に収まる有機物が含まれた廃水であれば、むしろそれが流れ込む沿岸の生物相を豊かにするという話をしてくれました。そして実際にそうしたバランスが取れているエリアとして、西

伊豆の戸田漁港というところがあり、いかにその港の生態系が豊かという話をしてくださったと思います。

いつも通り教科書とノートを下品な落書きまみれにしながら授業を聞いていた僕に、この話はガチンと響きました。

実は僕が東邦中学を受験した理由の一つに、小学生の頃にレイチェル・カーソンの『沈黙の春』を読み、人の生活から発生する汚染物質の生物濃縮や、それによってもたらされる生態系破壊に興味を持ったことがありました。環境問題↓理系↓千葉の理系は東邦、という短絡ではありますが、当時は子ども向けに『少年朝日年鑑』や『少年読売年鑑』のような科学読み物が多く出版されていて、全面核戦争の脅威から環境破壊、ミナマタやイタイイタイ病といった僕らが生まれる前の公害問題等々を、少々ホラーや露悪趣味に偏った文脈で読んで下キドキする時代だったように思います。

人の営み？そんなものは地球規模の生態系でみれば破壊行為でしかなく、人類なんて地球生命史の汚点にすぎんのだと、いかにも中学生らしい極論を心の片隅にジワジワさせていた僕にとつて、その人の営みと自然環境が互いを支え合う「戸田漁港」は、パラダイスのような場所として、頭に刻まれたのでした。ああ戸田漁港、戸田漁港。憧れの戸田漁港。

実際にその戸田漁港を訪れたのは、高校二年の夏休みのこと。部活帰りに必死にバイクして貯めた金で買った自転車、人生初の野宿旅行の目的地として、設定しました。

おお、ここが憧れの生態系を宿す場所か！
湾を囲むようにせり出す岬の突端の神社を勝手に宿営地に定めるや、着た服のままドボンと飛び込んだ海。今になってどうやって思い返そうとも、そこに残る記憶は海の美しさではなく、迫りくる台風の荒波と岩肌のフジツボで素



既刊著作

手をサクサク切ったことだけ（思い出とはそういうものなのでしょう）。あと拾った海藻を食ったらば絶妙にまずかった件。

けれど、その旅の帰り路、後の僕の人生を決づける、ある出来事があったのでした。

それは帰路の最後の宿営地として迷い込んだ、江の島マリナーの便所裏。小さな音でつけたトランジスタラジオ（高校一年生の技術の授業で作った）から流れてきた、ひとつのニュースです。

一九九〇年八月二日の夜、淡々としたNHKニュースのアナウンサーが告げたのは、サダム・フセイン政権下のイラクが、突然クウェート侵攻を始めたということでした。

侵攻。戦争。殺戮。

星の見えない夜空の下、そのとき僕はただただ「人類は気持ち悪い」と思いました。

数日かけて見てきた、強烈な真夏の自然の景色。想像したことのないような地方に生きる人々

の生活と、嗅いだことのない空気。あまりにみすばらしく臭い僕に、「あんたを食旅行だね？」と失礼なことを言っただけでバナナをくれた南伊豆下流集落の雑貨屋の婆ちゃんに、理由のわからぬ涙が込み上げたこと。

それが数日味わってきた、人生初の鮮烈な旅の体験だったはず。

でもその旅の終わりにラジオでは、今この地球上で、国が国に侵攻して新たな人殺しを始めた。

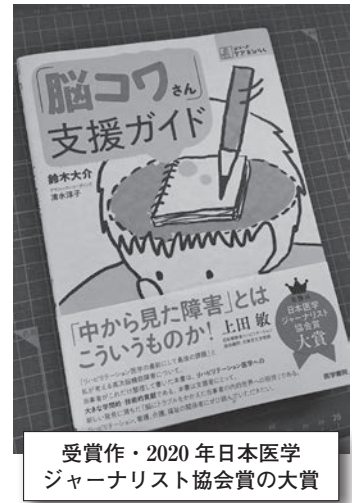
キューバ危機は生まれる十年前の出来事、ベトナム戦争は僕らが生まれてすぐに終わっています。小学生の間ずっとドンパチしていたイラク戦争が終わったのは、中学二年の夏休み中。光瀬龍というSF作家が数十億年続く戦争を描いた『百億の昼と千億の夜』というクソ長い小説を読み切った直後だったので、それも記憶に残っている。

けれどまた、新たに国の都合で人殺しを正当化する人たちが現れた。

侵略の第一報を聞いて、僕の中から第一に出てきた気持ちは、「人類は気持ち悪い、醜い生き物だ」というものでした。

次いで出てきた気持ちは「東邦高校を中退する！」だったのがまた、十代の痛々しさでしよう。世界で人殺しがまた始まって、いまでもそれが続いている。こんな時にのんびり平和に学校なんか行つてられるか！

今思えば絵にかいたような若気の至りですが、実は県下随一の進学校に通いながら中退なんて選択肢が頭の中にあつたのも、また恩師御喜先生の薫陶（？）たぶん中一か中二の時に、いまは無きグラウンドの鉄棒前で「大介ぐらゐの馬鹿になると、高校に上がって中退するか東大に入るかのどちらかだ」という褒めてもらえないのかのどちらかだ」という指摘を受けたことがあつたからではないかと思えます（その後中退をしなかったのは、倫理の高品先生の手



練手管で丸め込まれたからです)。

さて、その「大介ぐらいの馬鹿」だった僕は、旅を終え夏休みを終えた九月頭の実力テストの日、学校をさぼって上野駅に降り立ち、湯島の古いオフィスビルの一室にあった国際協力系のNGOの事務所に突撃していました(ちなみに始業前でした)。

これが本稿冒頭に書いた、ボランティア活動の入口。熱量だけの痛々しい高校生を受け入れてくれたこのNGOで、その後の僕は戦後ベトナムの支援チームや、湾岸戦争によって発生することになるクルド人難民の支援チームに携わるようになり、実はそれが、現在の仕事である文筆業につながっている。ということは、遡って考えれば今の僕が今の仕事をしているのは、御喜先生のせい(おかげ)。

もちろん、大介ぐらいの馬鹿ですから、このNGOでボランティアとして立派に活動して現地支援に向かい、帰国後に活動報告を出版するといった「ご立派なジャーナリスト活動」をして今に至るわけではありません。

逸脱と挫折と中途半端と自己逃避と……そうした自己嫌悪に陥りそうな紆余曲折を経て、辿り着いた書き手としてのテーマは「苦しいと言えない人の声を代弁する」「苦しもうにも可哀

そうにも見えない弱者の声を拾い上げる」であり、ターゲットは海外ではなく国内問題。

しかも売春や性風俗などセックスワーク・ナイトワークに関わる女性や、触法少年や反社と呼ばれる、いわば「本来弱者とはされていない人々」「むしろ差別と排斥の対象にある人々」を対象に取材執筆を続けて、いまに至ります。

そんな今、ふと振り返って、あの時東邦を中退していたらどうだったんだろう? そもそも東邦に入っていないかたらどんな自分になっていたのだろうと思うことがあります。この疑問は、自身に愛校心があるかの問いとも直結するものです。

答えは明確。「あの六年がなければ今の僕はない」です。

人生はいつまで経っても新たに学ぶことの連続ではありますが、人にとつての十代の学びは、その後の学びとは全く異質のものに思えます。その瞬間に感じていたことが憤りであれ劣等感であれサンチマンであれ、拙い自己誇大感や優越感であれ野心であれ、すべては愛おしき学びの素材であり、その後に続く人生を決定づけるもの。

ただしそれは、その場に「強すぎる支配と排斥が伴わない」ことが、絶対の前提です。支配と排斥のある学びの場は、「矯育」であつて教育ではない。

在校中はそれこそ十代の誇大した自己の色眼鏡で母校を「忌々しきプチブル学園」ぐらいに思い、その後も「学の灯」全然高く掲げない反アカデミズム的な指向に繋がる東邦での六年でしたが、その間僕は過剰な支配も排斥も一切受けることなく、自らの思うがままに逸脱することを許されました。

時代も寛容だったのかもしれないませんが、校風もまた寛容であつたと思います。

東邦にいた生徒がいかに多様だったかについて

では、卒業後にいわゆる進学校の卒業生の話を聞く中で、知ったことです。

朝礼が嫌で保健室に行けば、朝礼拒否組のアジールがありました。

退学を思いとどまり自分なりに進路を定めた後は、最低限卒業に必要な単位数と出席数を担任自らが教示してくれました(芦野先生・矢吹先生でした)。

バイトやボランティア活動で夜が遅くなつて終電の京成津田沼で足を失うと、学校まで歩いて学校に隣接する公営泉団地のブロック塀をよじ登って部屋に泊まることになりましたが、いざ見つかつても事情を話せば「仕方ない奴だなあ」で放免みないなこともたびたび……。

十代が自我を醸成するのに必要なのが「ちよつと不自由だけど安全な悩みの場」であるならば、東邦の進学校らしからぬ鷹揚な校風は、まさに自分にとってそうした居場所を用意してくれたのだと、今になってしみじみ思うのです。

そんな僕は六年ほど前に四十一歳にして脳梗塞を発症してしまい、高次脳機能障害の当事者となつて後は、執筆する内容も脳機能障害の当事者表現が柱になっていますが、先日刊行した『脳コワさん支援ガイド』(医学書院)にて、日本医学ジャーナリスト協会のグランプリに選出させていただきました。

医学にゃ無縁だし、書き手ではあるけどジャーナリストでもない自分が受賞するにはずいぶんと畏れ多きタイトルですが、医学部薬学部を頂点にいだく東邦中高のOBとして、なにやら面白い縁を感じざるを得ません。

あの時があつて、今に至る。

以上が、自分の中に愛校心があると感じるに至つた雑考です。今も我が母校が、僕みたいな外れた生徒も抱擁する安全な悩みの場でありまことを、切に願います。

文責・鈴木大介

学校の近況

一、在籍数(令和三年六月一日現在)

《中 学》

	第1学年	第2学年	第3学年	計
男子	171名	197名	187名	555名
女子	131名	117名	121名	369名
合計	302名	314名	308名	924名
学級数	8	8	8	24

《高 校》

	第1学年	第2学年	第3学年	計
男子	179名	178名	165名	522名
女子	150名	135名	128名	413名
合計	329名	313名	293名	935名
学級数	9	9	9	27

二、令和三年度 主な学校行事の日程

文化祭「銀杏祭」(中高合同)

九月十一日(土)・九月十二日(日)

※感染拡大防止対応の為、一般公開なし。

体育祭(中学)十月二日(土)

※感染拡大防止対応の為、一般公開なし。

入学試験

中学校

推薦……………令和三年十二月一日
 前期……………令和四年一月二十一日
 後期……………令和四年二月三日

※コロナ感染状況により変更される場合があります。

三、部活動の活躍

(令和二年四月〜令和三年三月)

※県大会レベル以上を掲載。個人競技については上位入賞者および関東大会以上の出場者は氏名を掲載。

中 学

●水泳部

2020年度 千葉県選手権水泳競技大会
 (中学高校リレ)兼 高等学校・中学校
 47都道府県通信水泳競技大会
 男子400mフリーリレ
 第3位 4分00秒54
 (3日岡留大和・3B油木祐真・
 3D福岡友陽・3C石原陽輝)
 男子400mメドレリレ
 第4位 4分28秒74
 (3D福岡友陽・3日岡留大和・
 3B油木祐真・3C石原陽輝)
 女子400mフリーリレ
 第5位 4分58秒89
 (3E布川のぞみ・2E柳迫葵・
 3日瀬庭麻羽・3D石田遥菜)
 女子400mメドレリレ
 第7位 5分34秒01
 (3D石田遥菜・2F下村優花・
 3E布川のぞみ・3日瀬庭麻羽)

●硬式テニス部

2020年度 第2回千葉県公認記録会
 中学・高校 最速王決定戦
 男子50m平泳ぎ
 第1位 28秒55
 (中学新・千葉県中学新)
 3日岡留大和
 男子50m自由形
 第1位 24秒02
 3日岡留大和
 中学男子優秀選手賞
 3日岡留大和
 2020年度 中学校 47都道府県
 通信水泳競技大会
 男子100m平泳ぎ
 第1位 1分02秒94
 3日岡留大和
 男子200m平泳ぎ
 第3位 2分17秒93
 3日岡留大和
 ジャパンオープン2020
 男子50m平泳ぎ
 28秒30(中学新)
 3日岡留大和
 東京都OPEN2021
 男子100m平泳ぎ
 1分01秒97(中学新)
 3日岡留大和
 令和2年度千葉県中学生秋季
 テニス選手権大会
 男子シングルス3位入賞
 広瀬陽斗(中学2A)
 女子シングルス3位
 児嶋さくら
 女子ダブルス3位
 児嶋さくら・福島莉佳
 令和2年度 第43回千葉県中学校
 新人体育大会 柔道大会
 女子個人準優勝
 藤田 楓(中学2A)
 第66回全日本通信陸上競技大会
 千葉県大会(2・3年生)
 男子個人4名 男子リレ 出場
 第66回全日本通信陸上競技大会
 千葉県大会(1年生)
 男子個人7名 女子個人6名出場
 男子1年走幅跳 4位入賞
 松村成緒(中学1D)

●柔道部

●陸上競技部

● 中学オーケストラ部 (・高校オーケストラ同好会)
 第27回全国高等学校選抜
 オーケストラフエスタ出場

● 硬式テニス部
 第52回千葉県高等学校新人テニス大会
 男子団体ベスト16
 女子団体ベスト32
 男子ダブルスベスト32
 令和2年度 千葉県高校新人陸上大会
 個人・リレー 出場

● 陸上競技部
 第27回全国高等学校選抜
 オーケストラフエスタ出場
 第27回全国高等学校選抜
 オーケストラフエスタ、選抜合奏出場
 吉田咲音 (高校2A)
 上原ありさ (高校2F)

● 高校オーケストラ同好会 (・中学オーケストラ部)
 令和2年度 千葉県高校新人陸上大会
 個人・リレー 出場

● 硬式テニス部
 第52回千葉県高等学校新人テニス大会
 男子団体ベスト16
 女子団体ベスト32
 男子ダブルスベスト32
 令和2年度 千葉県高校新人陸上大会
 個人・リレー 出場

● 陸上競技部
 第27回全国高等学校選抜
 オーケストラフエスタ出場
 第27回全国高等学校選抜
 オーケストラフエスタ、選抜合奏出場
 吉田咲音 (高校2A)
 上原ありさ (高校2F)

高校

四、高等学校 有志活動の活躍

(令和二年四月〜令和三年三月)

※県大会レベル以上を掲載。個人競技については上位入賞者および関東大会以上の出場者は氏名を掲載。

高校

● スケート
 第70回 全国高等学校選手権大会出場
 フィギュアスケート競技
 男子シングル
 廣田聖幸 (高校3B)

五、ご退職の先生

三谷夏美先生 (図書館司書)、長橋光先生 (国語)、家田啓示先生 (英語) が令和二年度末で退職になりました。

アワード贈呈部活からの報告

◆僕の欲望

中学水泳部 岡留 大和

水泳部の岡留です。

いきなりですが、僕のモットーは、「最小の努力で最大の結果を出す」ということです。

僕は、特別水泳が好きなのですが、他にもやりたいことがたくさんあります。また、僕は、努力することが嫌いです。十五歳の僕が言うのもなんですが、人生は短いと思っています。なので、生きている間にやりたいことをなるべく多くやりたいです。以上より、僕は水泳



において、最小の努力で最大の結果を出そうと思っています。今のところですが、こんな僕でも上手くいっていると思っています。このまま突っ走っていく予定ですが、そうはいかないかもしれません。ここからは、未来の自分が、十五歳の頃の自分が持っていた欲望を確認できるように、自分の欲望を書きたいと思います。

- ・ やりたいことをやる為の能力・財力を持つ (金持ちになる)
- ・ とりあえず水泳で世界一位
- ・ 素敵な女性と結婚する (幸せな家庭をもつ)
- ・ 幸せな状態で死ぬ

今後とも応援をよろしくお願いします!!

◆中学サッカー部

昨年度の九月に行われた千葉県私学大会の予選を通過し、十二月に行われた私学首都圏チャンピオンズカップに出場した。この大会は東京・神奈川・埼玉・千葉の私立学校の代表校が集まり、チャンピオンを決める大会である。本校は初戦に東京都代表の東京成徳大学中学校と対戦した。

試合は立ち上がりから動きが悪く、チャンスを作ることはあるものの、攻め込まれる時間が多かった。しかし、幸先よく先制し、苦しいながらもそのまま試合を進めることができた。このまま試合終了かと思われた後半ロスタイムに失点し、延長戦に入ってしまった。延長戦でも

決着がつかず、PK戦の末に敗れてしまった。トーナメント戦であったので、一試合で大会を終えてしまったが、高校サッカー部への橋渡しとして良い経験になった。



◆スキー部全国大会出場

高校スキー部 土田 嵩大

東邦スキー部には現在、高校生男子九人、女子二人、中学校男子五人、女子三人、中高合わせて十九人の部員がいます。東邦のスキー部はスキーの二つの競技をしています。

一つ目はアルペンスキーです。東邦スキー部では高校生二人、中学生一人がこの競技に参加しています。アルペンスキーは斜面の決められたコースを滑り降り、そのタイムを競う競技です。その魅力は何と言ってもスピードです。大胆かつ繊細な動きの中で生まれるスピードには圧巻されています。高校生の大会ではスラローム、ジャイアントスラローム、スーパージャイアントスラロームの三種目があり、十八歳以上の大会になると滑降が加わります。これらの種目の違いを簡単に説明するとコースに張られているポールの間隔の違いです。スラロームが最も狭く、滑降が最も広いです。間隔が広くなればなるほどスピードが出やすくなり、滑降では最高速度が一四〇キロに達することもありますが、そうではありません。

二つ目はクロスカントリースキーです。クロスカントリースキーとは簡単に説明すると走るスキーです。クロスカントリースキーというのは自然の中に作られた平地、上り、下りのあるコースを滑りタイムを競うスポーツです。距離は一・二kmから長くて五十kmほどあります。

中学生の大会では五〜十km、高校生の大会では十〜十五kmを滑ります。平地や登り、また風が強い時などはとても辛い競技ですが、滑り終わった後の爽快感が辛さをすべて忘れさせてくれます。クロスカントリースキーでは体力なども重要ですが、距離が長いので、板をいかに滑らせるかがとても重要になってきます。なのでレースの前日に板に塗るWAXがとても重要になってきます。個人的にはクロスカントリース

キーの体力以外にも道具に関する知識が結果につながるところがとても好きです。千葉は雪がないので雪のある他県よりシーズンインが遅く、シーズンオフも早いです。なので東邦スキー部では頭を使い、色々と工夫をして練習をする必要があります。また自然の中で行うスポーツなので自然に左右されることも多々あり、辛い時もたくさんあります。しかし部活のいいところは仲間がいるということだと思います。なので今年は辛い時こそ仲間と助け合い、より良い結果を残せるような一年にして行こうと思います。



JOC ジュニアオリンピック大会 (名寄)

◆インターハイ出場

廣田 聖幸

私は、二〇二一年一月二十一日から二十五日にかけて長野県で行われた令和二年度全国高等学校総合体育大会第七十回全国高等学校スケート競技選手権大会フィギュアスケート部門に出場した。私自身は、去年に引き続き二年連続の出場であった。しかしながら、昨年度は新型コロナウイルスの影響で、今大会は無観客開催となった。観客の前で演技をする競技であるフィギュアスケートの選手にとって、観客の声援がないことはとてもつらいことだった。また、全国の高校生にとって異例の一年間であり、私もその一人であった。春に緊急事態宣言が発出され、自分が練習していたスケートリンクが閉鎖されて、およそ三か月スケートの練習ができなかった。また、私は高三であったため、学校に行くこともできず、家で先生から送られてきた課題や参考書を通じて受験勉強に励んだ。宣言解除後、氷に乗った時の感覚をすっかり忘れてしまい、元に戻すまでかなり時間がかかった。ジャンプもスピンの全くできず、体力も落ち、二分半しかないショートプログラムを滑り切ることさえままならなかった。また、出場する予定だった大会も中止になったりして実戦感覚もなくなってしまった。

ちょうどインターハイの一週間前、自分は共通テストを受けた。そのせいで試合の一週間前は思うような練習ができぬまま本番を迎えてしまった。決して調子が悪かったわけではない

が、会場が長野オリンピックの会場として使われたビッグハットということもあって、公式練習の時からとても緊張していた。さすが全国の舞台となると、本当に周りの選手が上手で、その雰囲気にも飲み込まれてしまった。

いよいよショートプログラム。自分の滑走順は全体の三十九番目、グループの五番目だった。この日はジャンプの調子がかく悪かった。直前の公式練習でジャンプが全然決まらず、とても焦っていた。こうして迎えた自分の番。この時すでに緊張の限界を超え、逆に開き直っていた。「とにかく自分のできることを出し切ること」、「失敗を恐れず悔いのないように」。でも、ジャンプでは入れなければならないコンビネーションジャンプを入れられず、思うような滑りができなかった。点数も伸びず、自己ベストにも全然及ばず、結果は予選三十二位。予選敗退。散々だった。決勝に進めた去年とは正反対の結果。「予選敗退」というものを味わったのはこれが初めてだった。

でも、この結果にはとても満足している。全国の舞台に立てたこと、決勝に進めなくとも出せる力をすべて出し切れたこと、やれることはすべてやり切れたこと、中高六年間自分に課した「スケートと勉強との両立」という課題を六年間やり切れたこと。途中、挫けそうになったこともたくさんあった。でも、応援してくださった先

生方やサポートしてくださったたくさんの方に結果が伴わなくても自分の演技を見せることで恩返しをすることができたと思う。中高六年間の集大成として全国の舞台に立てたこと、とても誇りに思う。そして、コロナの影響で春夏甲子園など数々の大会が中止となった中、無観客であってもこのような大会を開催していただいたこと、それに向けて多くの準備をしてくださった先生方、ずっと支えてくれたコーチ、そして何よりも両親に本当に感謝したい。私は大学に進学して、このままスケートを続ける。でも、自分の中で、大学を卒業すると同時にスケートを引退することを決めた。あと四年間、これまで積み上げてきたものをすべて出し切つてスケート人生を終えたい。そして今まで支えてくださったすべての人に恩返しできるように演技を出場するすべての大会でできるようにこれからも頑張りたい。



第70回全国高等学校スケート競技選手権大会
 開催日 令和3年1月21日～24日 会場 長野市ビッグハット

◆中学卓球部・関東ブロック大会出場に際して
「僕達が得られたもの」

前中学卓球部キャプテン 大竹 春輝

僕は、キャプテンにも関わらず、あまり卓球において強くありませんでした。元々運動ができるわけでもなく、かといって勉強が優秀というわけでもない、おまけに自分でも自覚があるくらいうるさいし忘れ物多いしと、いわゆる「ダメ人間」でした。部活でも、こんなに怒られるキャプテンはいないんじゃないかというくらい怒られ、最初は卓球の成績も著しくなく、足を引っ張るというイメージのほうが強かったと思います。そんな僕を、キャプテンとして信じ続けてくれた先生方、そして仲間として信頼してくれたチームの皆、ずっと応援にきて支えてくれた保護者の方々には、本当に感謝しかありません。

県新人戦での関東決定が決まる対市川戦、去年先輩達の試合を上から見るのとは全く違う会場の雰囲気、ピリピリと漂う緊張感、観客と一体となるような力強い応援、その全てが、今思い返すともう二度と味わえない貴重なものでした。そして、関東が決まった時のふわっとするようなあの感じ、仲間と駆け寄り、現実であることを確かめ、今までしてきたことは何一つ無駄じゃなかった！という、言葉では言い表せない感覚を、僕は忘れることはないでしょう。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、関東大会は中止になってしまいました。しかし、多くの先生たちの尽力で、昨年夏に

「中学校関東ブロック大会」が開催され、千葉県代表校の一チームとして出場することができました。中学校の卓球部を最後までやり遂げ、これまでの事で無駄になることは一つもなかったと思っています。悔いが一つもないといえば嘘になりますが、それでもこの中学生生活は、だれにも負けないくらい充実してたぞと胸を張って言える自信があります。卓球は、スポーツの中ではどうしても地味に見られがちですが、想像よりもっと厳しくて、悔しくて、楽しいというドラマがあるんだということを知ってほしいと思いました。

「関東ブロック大会出場に寄せて」

前中学卓球部部长 三浦 隼人

僕たちにとって、関東大会は一年生の時から憧れの舞台でした。県大会で関東進出が決まった時は、一年半の努力が無駄にならず、しっかりと実ったことが実感できました。涙を流して喜び、その後一気に安心して、体調が崩れたほどでした。

僕は、中学校に入る前からクラブチームに所属しており、一年生の夏頃から二年生に混ざってレギュラーとして試合に出場させてもらっていました。日曜日の練習も、皆は休みなのに三浦はついて来いと言われ、「え？オレだけ？」と思うことも多々ありました。しかし、練習と試合を交互に行うことを積み重ねていくうちに、自分の技術は着々と高まってきているように感じていました。

その時期に最も気がかりだったことは、自分と他の同学年とにギャップが生じていた事です。あまりコミュニケーションもとれておらず、これからの同学年との団体戦が、正直とても不安でした。そんな中で迎えたあるオープン大会。三年生が出場するAトーナメントと二年生が出場するBトーナメントがありました。僕はAトーナメントに団体メンバーとして出場しましたが、途中で敗退しました。しかし、Bトーナメントの二年生はあっけなく優勝したのです。僕はとてもびっくりするとともに嬉しかったです。

それから僕は、同級生と試合で良かったことや反省点をたくさん話し合うようになり、いつの間にか多くのコミュニケーションをとれるようになっていきました。そして、三年生が引退した後、数々の大会で良い成果を残すことができました。僕も、一年生から試合に出させてもらった経験から、チームに貢献しようと、試合の立ち回りをアドバイスし、時にはぶつかり合うこともありました。しかし、数々の大会で好成績を残し、関東大会出場へと進めたのは、チームの皆がついてきてくれたからだと思いません。僕は、キャプテンの大竹を中心に、しっかりと声を出して、自分たちのペースをいつでも作り出せるというこのチームの力が、勝つた大きな要素であったと思います。大竹や僕をはじめ、高校生になっても多くの部員が卓球を続けています。これからも諦めずに頑張っていきたいと思います。

二〇二〇年度広報活動報告と 二〇二一年度広報活動方針

広報部 岡田 美秀

同窓会の皆様には平素より本校の広報活動にご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。本年度広報の責任者を務めることとなりました岡田美秀です。本校をとりまく環境と昨年の入試状況、並びに本年度の広報計画につきましてご報告いたします。

【本校を取り巻く状況】

昨年度はコロナ禍の続く一年となりましたが、千葉県および近都県における中学入試に大きく影響を与えました。東京都を中心とする首都圏全体の中学受験率は過去最高基準でしたが、県内の私立中学は軒並み受験者数が微減する結果となりました。受験生保護者の心情として安心安全を求める傾向が強く、無理のない受験スケジュールや、よりコンパクトな通学圏内での受験校選択がされたことなどが要因であると考えられます。

また、大学入試改革によるご家庭の不安を反

映して、大学の「付属校ブーム」が継続しています。本校においても、受験者には特に医学部を中心として付属校としてのメリットについて、また大学入試へのリスクヘッジを考える方からのご質問が多く寄せられています。本校は、私たちの伝統ある校風と合わせ、大学付属校でありまた進学校としての変わらぬ進学実績について評価をいただいています。

近年、渋谷幕張が進学校として大きな飛躍を遂げていることは、千葉県の高校における公立と私立のイメージを大きく転換させました。市川、昭和秀英などの躍進もあり、現在千葉県では競合私立他校それぞれが「私学ブランド」、学校としての特色ある魅力をご家庭にお伝えし、選んでいただいている状況です。

【二〇二一年度の入試報告】

■中学校入試

二〇二一年度の推薦入試は募集人数を十名増の四十名で実施し、受験者数は昨年より微減の七三五名となりました。実質倍率が十八・三八倍と二十倍を下回ったことは、受験生にとって好ましい傾向であると考えられます。

三年目となる「帰国生入試」では、初年

度六十一名、昨年度八十二名と推移する中、二十一年度は七十四名の出願がありました。合格者の六割以上が女子受験生となり、例年と同様の傾向が見られました。

「前期試験」の出願者数は、昨年度二五〇〇名から約一割減の二二五八名でした。合格者は五十四名減となりましたが、実質倍率二・二七倍と昨年（二・三七倍）よりやや緩和しました。

「後期試験」は、東京・神奈川入試の三日目ならびに国立都立中学校の入試日と重なりま



令和3年度入学式

一昨年度までの志願者は四〇〇名台で推移してきた中、前年度は五五三名と増やしましたが、二十一年度は例年並の四二六名の出願でした。合格者は昨年度より少ない二十一名の発表となり、実施倍率十八・〇五倍の非常に厳しい入試となりました。

■高校帰国生入試

前年度実施の二〇二二年度より「高校帰国生入試」の募集を停止して、海外在住の方々向けとしましては中一〜高二の春までの編入試験にすべて移行しております。

【二〇二〇年度活動報告】

広報活動は本年大きな制約を受けました。毎月隔週土曜日（原則）に実施している「学校見学会・説明会」も四月〜六月の期間は実施を見送りました。七月に毎回三〇〇名で募集していた参加人数を一五〇名（九月からは二〇〇名）にして再開しましたが、校舎内への見学は年間を通じて見送りました。校外での合同説明会やフェアはほぼ中止となりました。その一方で、ホームページを通じての学校案内を年度当初より充実させることに努め、五月には「Web学

校見学会・学校説明会」を誰もが視聴できる体制を整えました。また、外部説明会もオンラインで実施されるものが拡充されてきましたので、積極的に参加していきました。

帰国生を対象とする海外広報も本年は十分にできませんでしたが、オンラインで各国の予備校や日本人学校に向けて積極的に展開していきましました。従来は訪問できなかった地域からの参加も多く見受けられましたので、オンラインによる広報活動も継続していきます。

入試説明会は従来の一〇二〇〇名（計二四〇〇名）から一回四〇〇名（計八〇〇名）に変更して実施しました。そのため、申込ができなかった受験生家庭に向けて、YouTubeによる同時配信とアーカイブ配信を実施しました。

【二〇二二年度活動計画】

本年の広報部の活動としては、二〇二二年度入試に向けてこれまでの活動方針を引き継いで、国内外における活動を強化していくつもりです。しかし

ながら、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、広報活動も昨年と変わらず大きな制約の中でのものとなりますが、万全の対策を講じつつ、「学校見学会」「学校説明会」を開催し、情報発信を絶やさぬようにとめています。是非ご訪問ください。

同窓生の皆様には、これまで、国内・海外の様々な場所での広報活動にご支援いただきました。重ねて御礼申し上げます。本年も混乱の中のスタートとなりましたが、東邦大付属東邦中学校・高等学校のさらなる飛躍につながるよう、広報部員一丸となって活動に専念してまいります。本年度もよろしくお願いたします。

	中学推薦	中学帰国生	中学前期	中学後期
募集人数	40	若干名	240	20
出願状況	男子出願者	36	1384	241
	女子出願者	38	874	185
	出願者合計	74	2258	426
	志望倍率		9.41	21.3
受験者数	男子 391	男子 36	男子 1348	男子 215
	女子 337	女子 36	女子 822	女子 164
受験者数合計	728	72	2170	379
合格者数	男子 19	男子 13	男子 630	男子 11
	女子 21	女子 23	女子 324	女子 10
合格者合計	40	36	954	21
実質倍率	18.20	2.00	2.27	18.05
合格最低点	203	160	263	245
受験者平均	総合 150.0	総合 162.6	総合 252.6	総合 199.4
	国語 55.2	国語 53.6	国語 75.8	国語 79.3
	算数 46.5	算数 48.6	算数 42.0	算数 61.3
	理科 24.1	英語 60.5	理科 65.5	理科 32.9
	社会 24.1		社会 69.2	社会 25.7

2021年2月4日現在

2021年度 入試結果

令和三年度 大学入試結果報告

進路指導部 山崎 宣彦

大学入学共通テスト

令和三年度の大学入学共通テストは、大学入試センター試験から名称変更されて初めての実施で、一月十六日・十七日に、全国六八一の会場で実施されました。休校措置に対応するため第二日程も実施されましたが、志願者数は全体の〇・一三%でした。第一日程の志願者数は五十三万五二四五人で前年比九十六・〇%と三年連続減少となりました。平均点は、文系五教科八科目が五五二点（九〇〇点満点）で昨年から四点アップ、理系五教科七科目が五七二点で十三点アップとなりました。

本校の出願者数は二七〇名（出願率九十九・一%）で、ほぼ例年並みとなりました。受験会場は昨年度と同じく、千葉工業大学津田沼キャンパス・東邦大学習志野キャンパス・日本大学生産工学部津田沼キャンパスの三か所でした。各科目の概況は、「国語」「数学Ⅰ・数学Ⅱ」「数学Ⅲ」「生物」、および「ライティング」「リスニング」（配点換算）などで全国平均点との差が昨年度よりも大きい結果となりました。理系五教科七科目では六六七・六六二点（九〇〇点満点）、文系五教科八科目は六六一・七点となりました。上位層は、九〇〇点集計で八〇〇点以上は文系一名、理系五名で合計七名でした。

国立大学入試

全国の国立大学の志願者総数は前年比九十七%と減少しました。昨年も前年比九十四%と大きく減少していましたが、今

年もさらに減少となったことで、特に前期日程では志願倍率が二・九倍と、三倍を下回りました。既卒生の減少、および十八歳人口の減少による大学志願者数全体の減少による影響が大きかったと思われます。その中で、難関国立大では、大きな変化はなく、共通テストが予想されたより平均点が下がらなかったために、難関大によっては積極的に挑戦した様子も見られました。

私立大学入試

全国の私立大学の一般選抜入試の志願者総数は、前年比八七%と大きく減少し、昨年に引き続き二年連続の減少となりました。これは、昨年度入試の安全志向によって既卒生が大幅に減少していたこと、および、継続するコロナウイルス感染症の影響による経済状況の悪化や、地方から都市部への進学への敬遠、私立大学で割合の大きい文系の人気低下していることなどが理由となっています。学部系統別では、理工系、医療系で減少幅が全体よりも小さく堅調でした。

本校の入試結果

今年の卒業生は二七一名と少ないながら、全体としては健闘しました。その中でも「医・歯・薬・看護」では昨年を上回り、特に医学部の合格者数は昨年および一昨年を上回り好調でした。国立大学医学部二十名、および内現役生十名はいずれも過去五年間で最多で、特に千葉大医学部七名は特筆すべきでしょう。私立大医学部も昨年よりも大きく増加しました。難関私立大学の現役の合格者数は、早稲田大、慶應義塾大、東京理科大、上智大で昨年とほぼ同じと健闘しました。

【表 1】 過去 3 カ年間の共通テスト、センター試験平均点

年度	科目	国語		数学		外国語		理科					地歴			公民		
		国語	数学 I A	数学 II B	リーディング	リスニング	物理基礎	化学基礎	生物基礎	物理	化学	生物	日本史 B	世界史 B	地理 B	倫理	政治経済	倫理、政経
平成 31 年度	本校	149.6	76.3	68.3	156.9	37.3	37.2	39.4	37.4	71.5	64.4	79.0	80.4	77.7	68.1	81.7	71.0	70.3
	全国	121.6	59.7	53.3	123.3	31.4	30.6	31.2	31.0	57.0	54.7	62.9	63.5	65.4	62.0	62.3	56.2	64.2
	差	28.0	16.6	15.0	33.6	5.9	6.6	8.2	6.4	14.5	9.7	16.1	16.9	12.3	6.1	19.4	14.8	6.1
令和 2 年度	本校	144.9	69.2	69.4	153.3	35.5	38.4	36.5	36.0	77.4	69.6	70.6	81.2	80.6	76.1	87.0	71.1	71.5
	全国	119.3	51.9	49.1	116.3	28.8	33.3	28.2	32.1	60.7	54.8	57.6	65.5	63.0	66.4	65.4	53.8	66.5
	差	25.6	17.3	20.3	37.0	6.7	5.1	8.3	3.9	16.7	14.8	13.0	15.7	17.6	9.7	21.6	17.3	5.0
令和 3 年度	本校	144.0	76.2	80.4	78.3	71.5	40.6	29.7	34.3	74.1	71.9	88.2	79.3	79.9	68.9	76.3	82.0	75.8
	全国	117.5	57.7	59.9	58.8	56.2	37.6	24.7	29.2	62.4	57.6	72.6	64.3	63.5	60.1	72.0	57.0	69.3
	差	26.5	18.5	20.5	19.5	15.3	3.0	5.0	5.1	11.7	14.3	15.6	15.0	16.4	8.8	4.3	25.0	6.5

【表2 令和3年度主な大学合格者数一覧】

主な私立大学			
大学名	合格者数	学部名	内訳数
岩手医科	1	医	1
東北医科薬科	5	医	5
国際医療福祉	15	医	11
		保健医療	1
		成田看護	2
		成田保健	1
獨協医科	2	医	2
千葉工業	53	社会シス	6
		情報科学	5
		工	25
		創造工	8
		先進工	9
青山学院	22	文	3
		総合文化	2
		法	2
		経済	2
		経営	4
		社会情報	1
		教育人間	3
学習院	7	理工	5
		文	3
北里	10	経済	3
		理	1
		理	2
		医	2
		薬	3
杏林	1	獣医	1
		海洋生命	2
慶應義塾	45	医	1
		文	1
		法	1
		経済	7
		商	10
		理工	19
		医	1
		薬	6
国際基督教	2	教養	2
		工	24
芝浦工業	40	シス理工	13
		建築	3
順天堂	10	医	6
		スポーツ	1
		医療看護	3
上智	36	文	3
		外国語	4
		法	6
		経済	4
		総合グロ	1
		総合人間	2
昭和	10	理工	16
		医	3
		薬	3
		薬	4
聖路加国際	2	看護	2
専修	13	文	2
		法	2
		経済	5
		経営	1
		ネットワ	3
中央	43	法	7
		経済	2
		商	8
		理工	26
東京医科	8	医	8
東京慈恵会医科	3	医	3
東京女子医科	3	医	3
東京農業	13	国際食料	3
		農	4
		生物産業	1
		応用生物	2
東京理科	123	生命科学	3
		経営	5
		理	13
		理二	1
		工	33
		理工	52
		先進工	14
薬	5		

大学名	合格者数	学部名	内訳数		
東邦	32	理	4		
		医	21		
		薬	6		
		健康科学	1		
東洋	14	文	4		
		法	1		
		経済	2		
		経営	4		
		情報連携	3		
		法	6		
日本	56	経済	7		
		商	2		
		国際関係	1		
		生産工	6		
		理工	25		
		医	2		
		薬	1		
		松戸薬	1		
		薬	4		
		生物資源	1		
日本医科	4	医	4		
法政	40	文	4		
		法	4		
		経済	7		
		経営	6		
		現代福祉	2		
		人間環境	1		
		情報科学	2		
		キャリア	2		
		グローバル	2		
		デザイン	6		
		理工	3		
		生命科学	1		
		星薬科	7	薬	7
		明治	76	文	1
法	7				
政治経済	8				
経営	5				
商	11				
国際日本	7				
情報コミ	3				
総合数理	8				
理工	22				
農	4				
文	5				
立教	50			法	10
		経済	16		
		経営	5		
		社会	2		
		コミュニ	2		
		異文化コ	1		
		理	9		
		文	4		
		文化構想	4		
		法	7		
早稲田	63	政治経済	2		
		商	3		
		社会科学	4		
		教育	7		
		人間科学	5		
		基幹理工	12		
		創造理工	5		
		先進理工	6		
		スポーツ	4		
		麻布	1	獣医	1
		聖マリアンナ医科	2	医	2
金沢医科	2	医	2		
藤田医科	1	医	1		
立命館	6	経済	3		
		国際関係	3		
関西	1	人間健康	1		
近畿	1	産業理工	1		
神戸学院	4	薬	4		
その他	177		177		
私立合計	987		987		

国公立大学等			
大学名	合格者数	学部名	内訳数
北海道	6	経済	2
		医	1
		薬	2
		総合理系	1
弘前	2	医	2
東北	3	工	2
		農	1
山形	3	医	3
筑波	9	社会国際	1
		理工	2
		医	2
		体育	1
		総合理I	3
群馬	1	共同教育	1
		法政経	1
		教育	2
		理	2
		工	7
		医	7
		薬	2
		看護	1
		園芸	3
		東京海洋	1
お茶の水女子	1	理	1
電気通信	2	情報理工	2
東京	3	文科一類	1
		理科一類	1
		理科二類	1
東京医科歯科	4	医	3
東京外国語	1	国際日本	1
東京学芸	1	教育	1
東京工業	7	工	3
		物質理工	1
		情報理工	2
		環境社会	1
東京農工	5	工	4
一橋	1	農	1
横浜国立	3	経済	1
新潟	1	経営	3
金沢	1	医	1
山梨	1	医薬保健	1
信州	5	医	1
		人文	1
		教育	1
		理	1
静岡	1	工	2
浜松医科	2	理	1
京都	5	医	2
		法	1
		異文化	1
		工	2
		農	1
大阪	1	工	1
香川	1	医	1
鹿児島	1	法文	1
福島県立医科	1	医	1
東京都立	4	法	1
		経済経営	1
		都市環境	1
		システム	1
都留文科	1	文	1
長野県看護	1	看護	1
大阪府立	1	工学域	1
奈良県立医科	1	医	1
防衛医科	4		4
国立看護	1		1
国公立合計	111		111

新入会員を迎えて

この春、東邦高校を卒業した六十七期生二十七名は、同窓会入会式が実施できませんでした。新型コロナウイルス感染症拡大が終息し穏やかな日常が戻ってきましたら、一堂に集まって同窓の絆を深めたいものです。新会員の希望に燃えた、メッセージをご覧ください。

今

春、私たち第六十七期生は東邦大学付属東邦高校を卒業しました。長いようで短かった高校での日々を終え、それぞれが新しい生活へと進んでいる今、私の高校生活について振り返ってみたいと思います。

真っ先に浮かぶのは部活動での思い出です。私は吹奏楽部に中学一年生のときに入部し、中高六年間お世話になりました。最後の年には部長も務めさせていただきました。例年であれば高校二年生の三月に引退の定期演奏会をおこなうところ、昨年は新型コロナウイルスの影響で開催することができなくなっていました。本当に悔しくてやるせない思いでいっぱいでした。しかし、顧問の先生方や校長先生、保護者の皆様のおかげで、九月に学校の多目的ホールで演奏会をさせてもらうことができました。諦めかけていた最後の演奏を部員全員ですることができ、とても嬉しかったこ

とを覚えていきます。それと同時に、周りの方々の助けがあつて私たちの活動が成り立っているというところ、また私たちもお互いに支え合っているというところを改めて認識することができました。高校での日常生活や文化祭などの行事の中でも、同じような気持ちを実感する出来事が多くありました。これらの経験をさせてくれた本校には感謝の気持ちでいっぱいです。

これからの人生において、コロナ禍をはじめ何らかの影響で自分が思うようにならないこともたくさん出てくると思います。でもそこで簡単に諦めるのではなく、周りのためや自分のためにできることを考え、そのために誠心誠意取り組むという姿勢を学ぶことができた六年間でした。

私は薬学部に進学し、今は薬剤師になることを目指して勉学に励んでいます。環境も変わり、高校での学びとはまた違った視点からの学習に戸惑うことも多々ありますが、本校で得られたことを糧として、将来の夢に向かって一步一步進んでいこうと思います。

六十七期生 藤井 美月



母校の桜

同窓会事務局より

事務局担当理事 岡田 隆治 (36期生 母校教員)

- (1) パート事務員の方の同窓会事務室での執務時間
水曜日 9:30～14:30 土曜日 9:30～14:30
同窓会へのお問い合わせは、なるべくこの時間帯にお願いします
直通電話 047-472-1160 *FAX 番号は電話番号と同じです
- (2) 緊急の連絡に関して
上記の執務時間以外は、同窓会室への電話連絡はできません
緊急のお問い合わせは学校代表 047-472-8191 にお電話いただき、「同窓会関係教員」を呼び出してください
- (3) ホームページ等に関して
URL <http://www.shiseinin.org/> E-mail shiseinin@yahoo.co.jp

◆同窓会は、同期会、クラス会、部活のOB・OG会開催のサポート等もしています。詳細につきましては、事務局にお問い合わせください。